

令和 8 年 第 4 回
箕面市教育委員会定例会
議案書

報告第 7 3 号	令和 7 年度箕面子どもステップアップ調査結果報告の件・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
-----------	---	---

令和7年度（2025年度）

箕面子どもステップアップ調査結果報告
（その2）

- 箕面学力調査
- 箕面学習状況・生活状況調査

令和8年（2026年）4月
箕面市教育委員会

目次

箕面子どもステップアップ調査の概要	1
「箕面学力調査」、「箕面学習状況・生活状況調査」について	4
箕面学力調査＜概要＞	6
箕面学習状況・生活状況調査＜概要＞	8
箕面学力調査＜概要＞国語	10
箕面学力調査＜概要＞社会	14
箕面学力調査＜概要＞算数・数学	18
箕面学力調査＜概要＞理科	22
箕面学力調査＜概要＞英語	26
箕面学習状況・生活状況調査＜概要＞	30

箕面子どもステップアップ調査の概要

1 「箕面子どもステップアップ調査」とは

国には、

- | | |
|--------------|--------------------|
| ○全国学力・学習状況調査 | ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査 |
|--------------|--------------------|

府には、

- | |
|-------------------|
| ○すくすくウォッチ【わくわく問題】 |
|-------------------|

があります。

箕面市では、国・府の調査の他、独自に以下の調査を実施しています。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| ○箕面学力調査 | ○英検 IBA |
| ○箕面体力・運動能力、運動習慣等調査 | ○学習状況・生活状況調査（i-check） |
| ○学校生活アンケート | |

箕面市では、これら国・府の調査、箕面市独自調査のすべてを総称し、「箕面子どもステップアップ調査」と呼んでいます。

箕面子どもステップアップ調査 (箕面学力・体力・生活状況総合調査)概要											
		実施時期	1年生 (小1)	2年生 (小2)	3年生 (小3)	4年生 (小4)	5年生 (小5)	6年生 (小6)	7年生 (中1)	8年生 (中2)	9年生 (中3)
学力調査	全国学力学習状況調査	4月						● 国・算・理			● 国・数・理
	すくすくウォッチ	4月					● 教科横断的な問題	● 教科横断的な問題			
	学力調査	12月	● 2教科	● 2教科	● 4教科	● 4教科	● 5教科	● 5教科	● 5教科	● 5教科	
	英検IBA	10月									●
体力調査 (★は全国体力調査に参加) (◆は大阪府「めっちゃMORIMORI スポーツテスト」に参加)		4月～6月	● 3種目	● 3種目	◆ 8種目	◆ 8種目	★ 8種目	● 8種目	● 8種目	★ 8種目	● 8種目
生活状況調査	学習状況 生活状況調査	6月・12月	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	学校生活 アンケート	10月・2月	●	●	●	●	●	●	●	●	●

2 報告の概要

この報告は、ステップアップ調査のうち、令和7年12月に実施した箕面学力調査、令和7年10月に実施した英検 IBA、令和7年6月と令和7年12月に実施した、箕面学習状況・生活状況調査の市全体の結果の概要を報告するものです。なお、各学校の結果概要については、各学校の「ステップアップ調査概要」において、報告しています。

3 箕面子どもステップアップ調査内容

○ 学 力 調 査

▼学年ごとに子どもたち一人一人の各教科の到達度を把握・分析し、子どもたち一人一人に応じた着実な学力の向上を図ります。

▼調査結果を活用し、各学年の年間指導計画を立て、継続性のある学習指導を行うとともに、教員の指導力・授業力の向上を図ります。

内 容) 全国学力・学習状況調査

【6年生(小6)】 国語、算数、理科

【9年生(中3)】 国語、数学、理科

(2) すくすくウオッチ

わくわく問題(教科横断型問題)

【5～6年生(小5～6)】

(3) 箕面学力調査

【1～2年生(小1～小2)】 国語・算数

【3～4年生(小3～小4)】 国語・社会・算数・理科

【5～6年生(小5～小6)】 国語・社会・算数・理科・英語

【7～8年生(中1～中2)】 国語・社会・数学・理科・英語

なお、国語と英語は、リスニング(聞き取り)調査も実施

※各教科とも11月までに学習した範囲で、各学年における各科目の到達度を調査

(4) 英検 IBA

【9年生(中3)】 英検3級レベルを実施

○ 体 力 調 査

▼子どもたち一人の発達段階に応じた基本的な運動能力を調査し、基礎体力の向上を図ります。

▼日頃の運動習慣等を把握し、学校での様々な取り組みにつなげるとともに、家庭や地域と連携して課題の改善を図ります。

内 容

(1) 箕面体力・運動能力調査・・・「全国体力・運動能力等調査」と同時に実施

◎調査種目

【1～2年生(小1～小2)】 立ち幅とび・50m走・ソフトボール投げ

【3～9年生(小3～中3)】 立ち幅とび・50m走・ソフトボール投げ(中学生はハンドボール投げ) 反復横とび・20mシャトルラン・握力・上体おこし・長座体前屈

(2) 運動習慣、生活習慣等に関するアンケート調査・・・全学年で実施

▼子どもたちの学習習慣、ご家庭や学校での生活状況をアンケート形式で調査し、自尊感情※などの向上及び学習課題や生活課題の改善を図ります。

内 容

- ・ 「自尊感情」等の自己認識、「規範意識」や「思いやり」等の社会性、学級環境、生活や学習の習慣等の調査
- ・ 「いじめ」に対する子どもたちの意識・状況も調査

※自尊感情…自分自身に対する肯定的な感情。自分で自分自身を価値ある存在だとする感情。

4 箕面市の指標と目標値

本市では、児童生徒一人一人の学力・体力・生活状況を継続的に把握し、教育指導の充実や学習状況・生活状況の改善にむけた取組結果の検証軸として、以下の指標と目標値を設定しています。

令和7年度（2025年度）の目標値

	指 標 名		目 標 値
1	全国学力・学習状況調査	学力調査	トップの都道府県の平均正答率を上回る。
2		家庭学習時間の回答結果（全学年） 『小学生が1時間以上、中学生が2時間以上』	小学校 60.0 中学校 60.0を上回る。
3		【いじめのサイン】の肯定値	肯定値が 小学校 90.0 中学校 98.0を上回る。
4	学習状況・生活状況調査（i-check）	『自己肯定感に係る項目の肯定値の平均』 ①成功体験と自信 ②充実感と向上心 ③感動体験 ④他者からの評価	小学校 ①成功体験と自信85.0以上②充実感と向上心90.0以上 ③感動体験80.0以上④他者からの評価70.0以上 中学校 ①成功体験と自信80.0以上②充実感と向上心85.0以上 ③感動体験75.0以上④他者からの評価70.0以上
5	英検 I B A	英検 3 級程度の力（中 3）	81%を超える。 ※英検3級程度の力を有する生徒
6	体力・運動能力、運動習慣等調査	全 8 種目の結果（全学年）	全国平均値を上回る。
7	学習状況・生活状況調査（i-check）	学級風土に係る項目の肯定値の平均 ①『学級の規範意識』 ②『学級の絆』	肯定値 小学校①80.0以上 ②85.0以上 中学校①80.0以上 ②85.0以上
8	学校生活適応状況	全学年の不登校（傾向）千人率	小学校 5.0、中学校 15.0より下げる。

「算面学力調査」、「算面学習状況・生活状況調査」について

1 調査の目的

- (1) 箕面市教育委員会は、市内の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校は、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒一人一人への教育指導の充実や学習状況の改善などに活用する。
- (3) 箕面市教育委員会、学校は、上記(1)(2)の取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施日

第1回算面学習状況・生活状況調査

小・中学校 : 令和7年(2025年) 6月6日(金)

算面学力調査及び第2回算面学習状況・生活状況調査

小学校 : 令和7年(2025年) 12月10日(水)

令和7年(2025年) 12月11日(木)

中学校 : 令和7年(2025年) 12月16日(火)

令和7年(2025年) 12月17日(水)

3 調査対象

市内全公立小学校全児童及び、全中学校全生徒

4 調査内容

算面学力調査

1・2年生 : 国語・算数

3・4年生 : 国語・社会・算数・理科

5・6年生 : 国語・社会・算数・理科・英語

7・8年生(中1、中2) : 国語・社会・数学・理科・英語

算面学習状況、生活状況に関する調査

自己認識、社会性、学級環境、生活・学習習慣等の諸側面等に関する内容

5 参加人数

第1回箕面学習状況・生活状況調査

小学校	： 14校	8,104人	
中学校	： 8校	3,860人	計 11,964人

箕面学力調査

小学校	： 14校	7,789人	
中学校	： 8校	2,422人	計 10,211人

第2回箕面学習状況・生活状況調査

小学校	： 14校	7,940人	
中学校	： 8校	3,742人	計 11,682人

6 公表の目的

本市の教育及び教育施策における子どもの学力向上の取組の成果と課題をできるだけわかりやすく、市民や保護者へ説明することにより、地域・家庭の方々の学校教育への理解と信頼を得るとともに、子どもの学力向上及び生活状況の向上に向けて連携した取組につなげる。

7 公表の方法

- (1) 本市の調査結果や分析結果については、平均正答率等を活用し文書等により説明する。
- (2) 学校間の過度の競争等につながるおそれのある個々の学校名を明らかにした公表は行わない。
- (3) 各学校においては、自校の調査結果や分析結果を文書等により保護者に説明する。

8 公表の手段

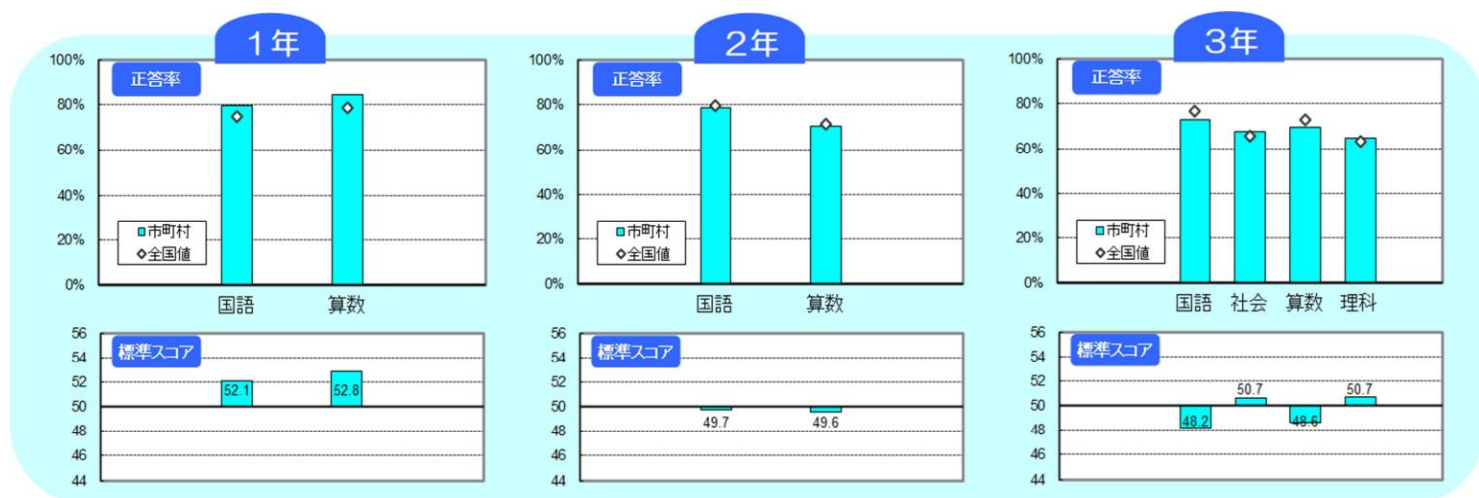
- (1) 教育委員会
 - ①教育委員会ホームページ
 - ②豊川支所、止々呂美支所
 - ③市内公立図書館の資料コーナー
- (2) 各学校
 - ①「学年の概要」で説明
 - ②学校協議会、懇談会などで説明

算面学力調査〈概要〉

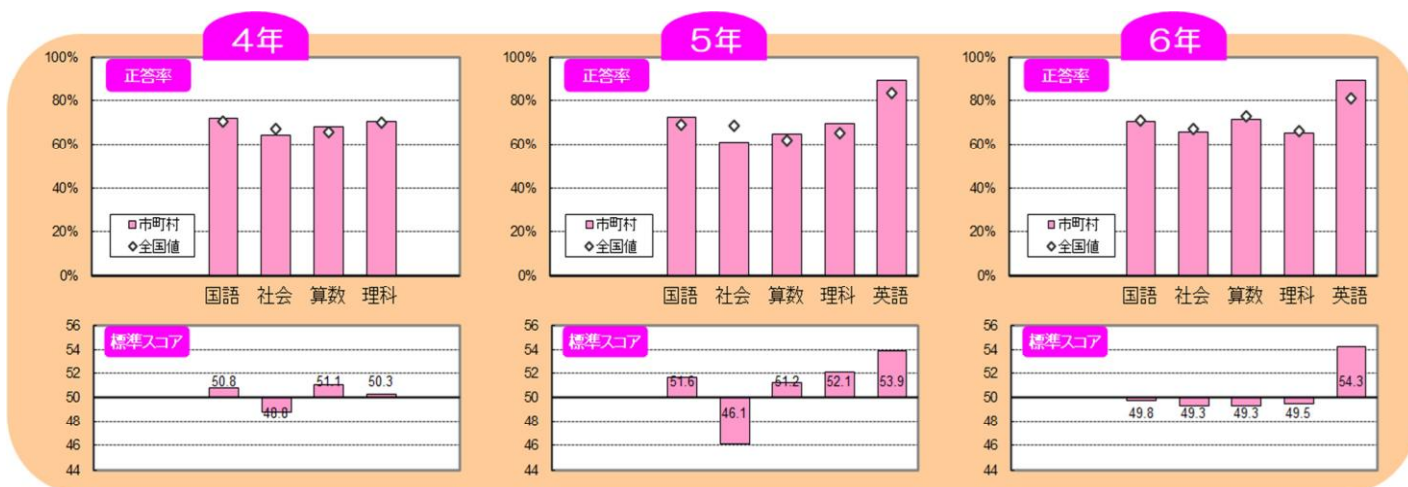
小学校・小中一貫校（1～6年）〈平均正答率の状況〉

教科	小1		小2		小3			
	国語	算数	国語	算数	国語	社会	算数	理科
算面市平均	79.5	84.2	78.7	70.4	72.8	67.4	69.7	64.9
全国平均	74.9	78.6	79.3	71.3	76.7	65.6	72.7	63.5
算面市偏差値	52.1	52.8	49.7	49.6	48.2	50.7	48.6	50.7

「全国値」とは、委託業者が各都道府県あたり1校以上の学校に対して、同一問題のテストを事前を実施して、算出したものです。



教科	小4				小5					小6				
	国語	社会	算数	理科	国語	社会	算数	理科	英語	国語	社会	算数	理科	英語
算面市平均	71.9	64.3	68.2	70.6	72.2	60.8	64.7	69.5	88.9	70.4	65.8	71.6	65.0	89.0
全国平均	70.4	66.9	65.7	70.1	69.1	68.3	62.0	65.4	83.3	70.8	67.3	73.1	66.0	81.1
算面市偏差値	50.8	48.8	51.1	50.3	51.6	46.1	51.2	52.1	53.9	49.8	49.3	49.3	49.5	54.3



中学校・小中一貫校（7・8年）＜平均正答率の状況＞

教科	中1					中2				
	国語	社会	算数	理科	英語	国語	社会	算数	理科	英語
箕面市平均	66.3	55.5	65.4	59.0	63.5	71.8	57.3	58.3	55.9	62.4
全国平均	63.0	55.9	57.0	57.6	51.9	70.2	52.6	50.5	50.5	51.0
箕面市偏差値	51.5	49.8	53.4	50.6	54.8	50.8	52.2	53.0	52.1	55.2

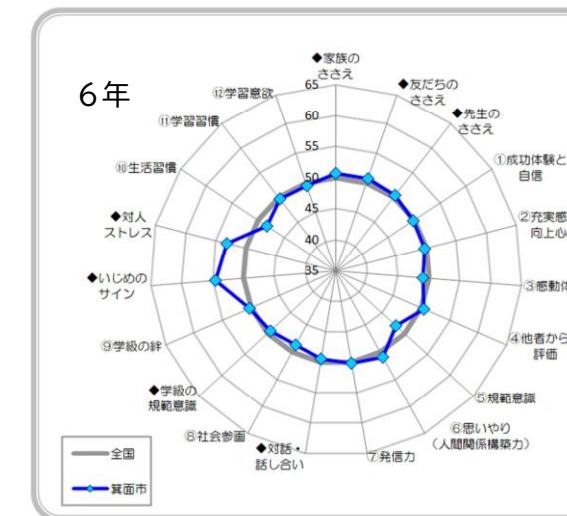
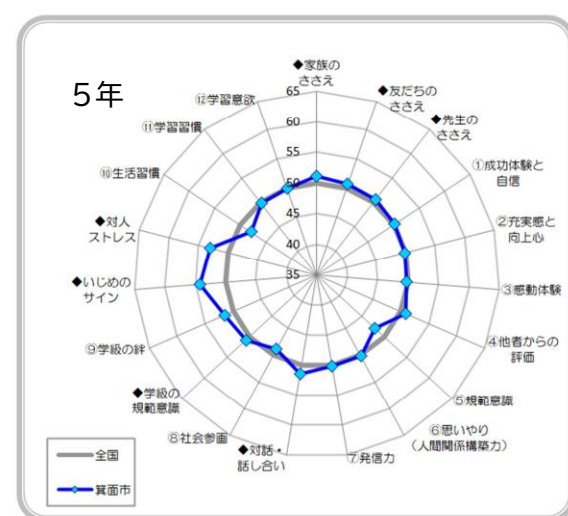
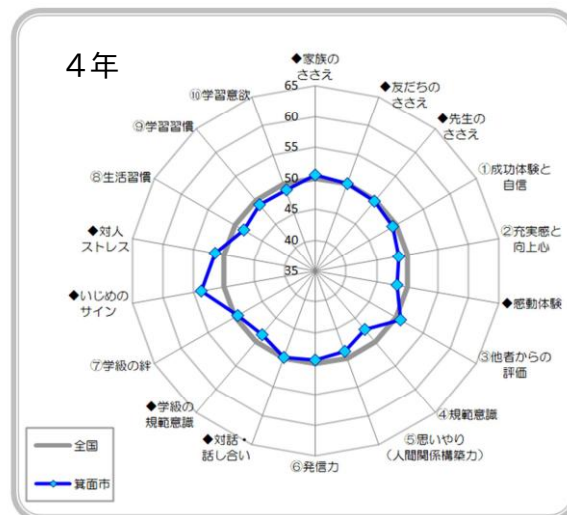
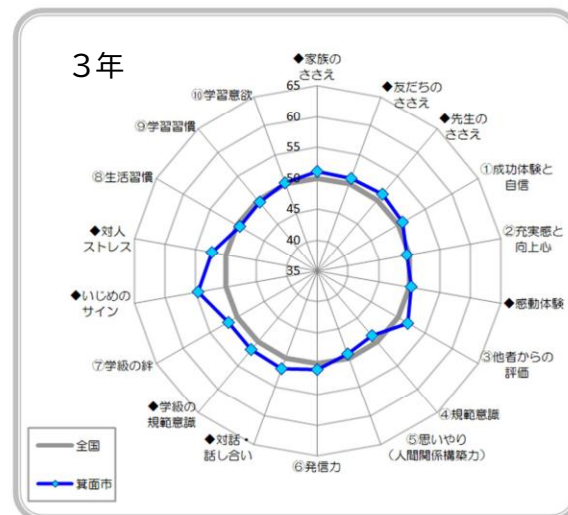
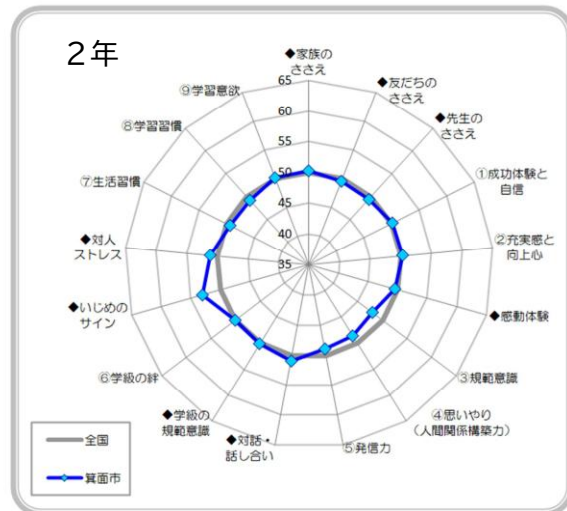
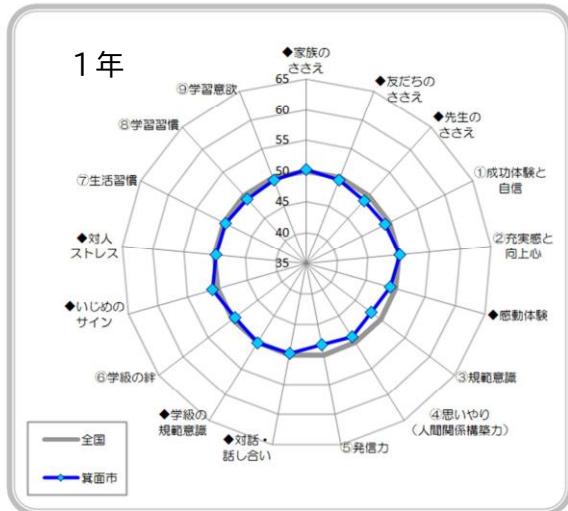


※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値で、50のラインを境に棒グラフが上に出れば相対的に良好であることを、下に出れば課題があることを示しています。

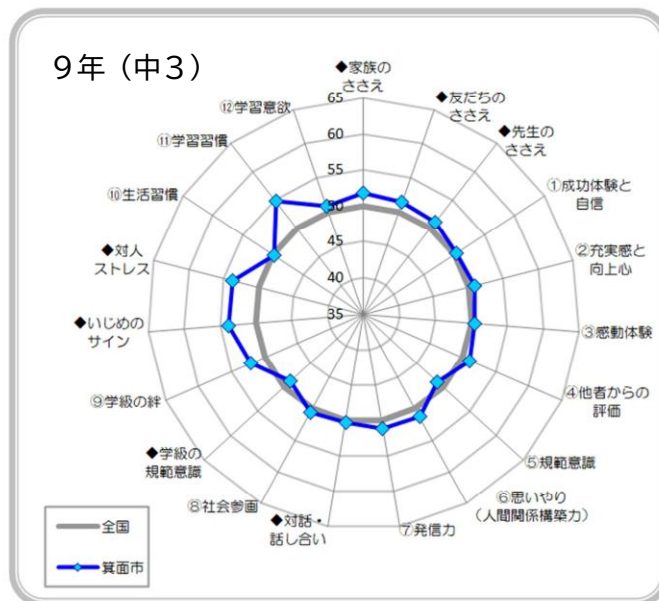
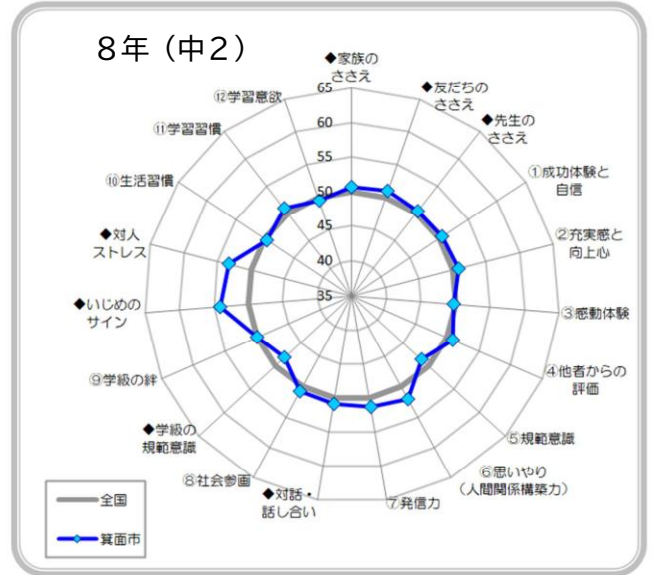
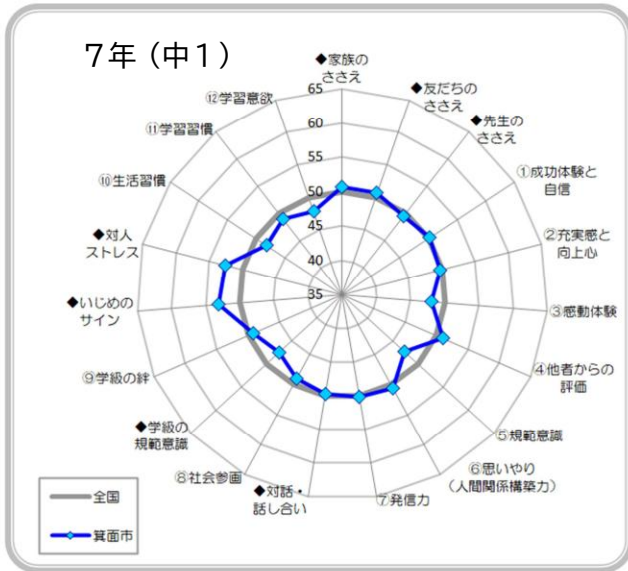
箕面学習状況・生活状況調査〈概要〉

※外側に広がるほど、良好な結果になります。

小学校・小中一貫校（1～6年）



中学校・小中一貫校（7～9年）



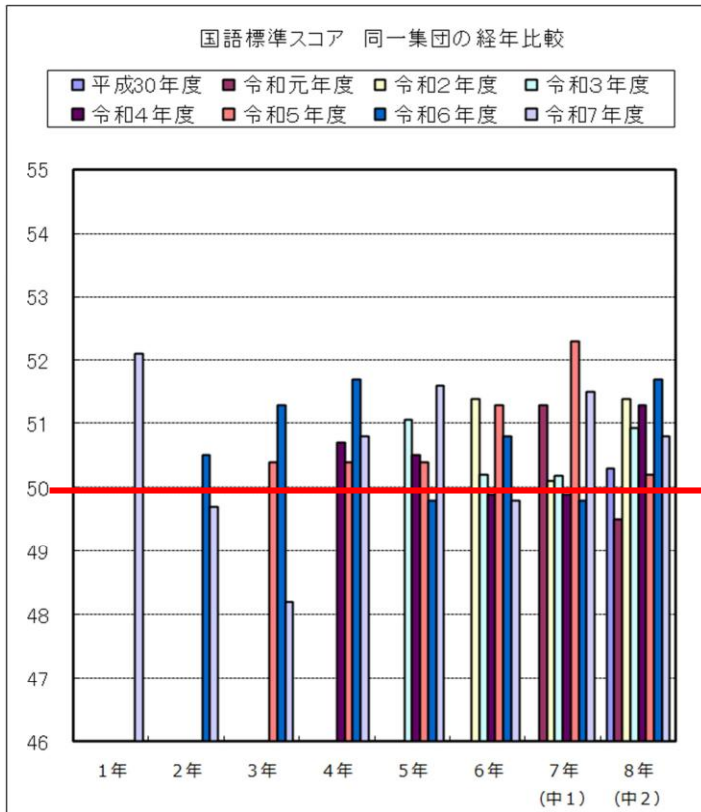
<学年表記について>

「1年」とは、小学校1年生であり、中学校1年生は、「7年（中1）」と表記しています。

算面学力調査〈概要〉 国語

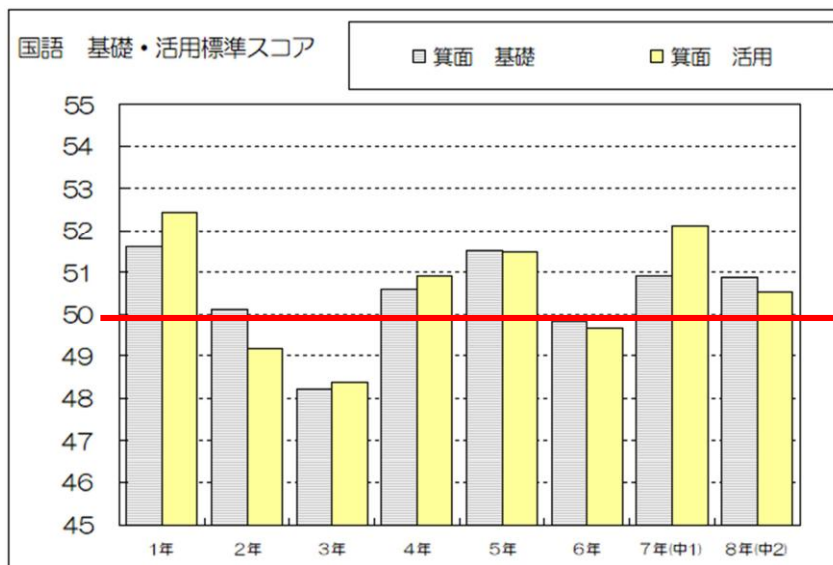
学年ごとの標準スコア

※標準スコア…全国の正答率を50としたときの値のことをごさる。



- 1年、4年、5年、7年（中1）、8年（中2）は標準スコアを上回っています。
- 同一集団で経年比較すると、特に5年・7年（中1）が昨年度と比べて1ポイント以上の伸びを見せています。

基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況

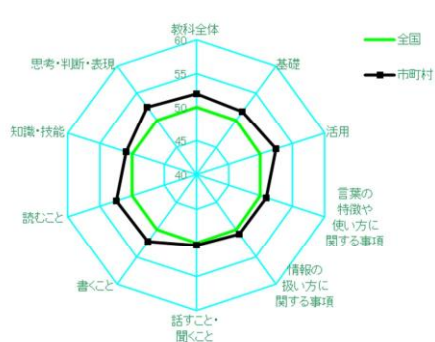


1年、4年、5年、7年（中1）、8年（中2）は「基礎」「活用」とともに標準スコアを上回ったね。

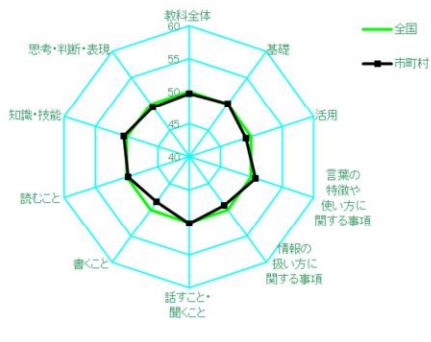


標準スコアによるカテゴリ一間の比較

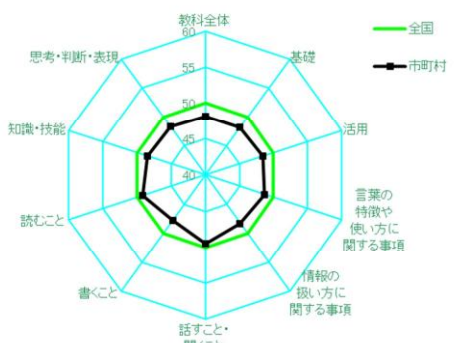
1年



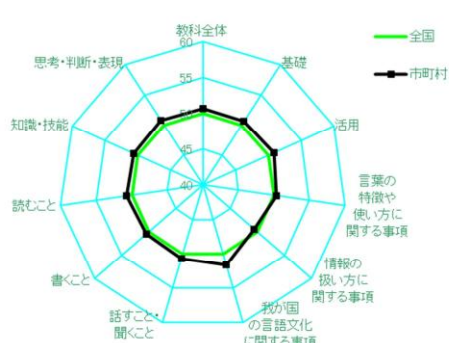
2年



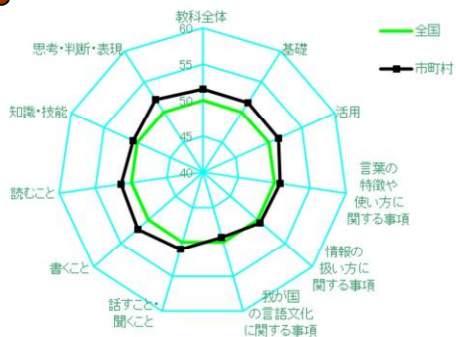
3年



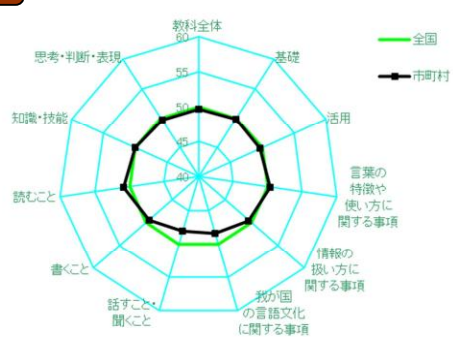
4年



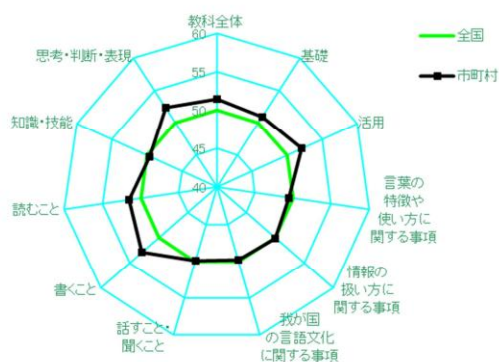
5年



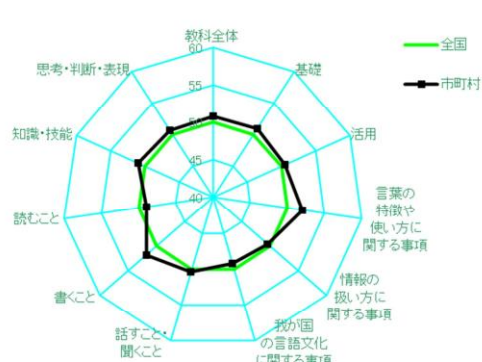
6年



7年(中1)



8年(中2)



- 1年は全ての観点において標準スコアを上回りました。
- 標準スコアを下回った観点では、「情報の扱いに関する事項」が最も多く、5学年で下回りました。

設問例から見てくると

○3年(国語辞典の使い方を正しく理解しているか問う問題)

標準スコアが7.7ポイント低かった問題

- 正答 2
- 1 おきて
2 おきる
3 おいて
4 おいた

③ (4) 上野さんと森山さんが教室で本を読んでいます。次の会話文の [] に入る言葉を、あとから一つえらんで、その番号を書きましよう。

上野 『大きな出来事がおきた。』の『おきた』がどういう意味か調べたいのだけれど、国語辞典にのっていないんだ。」

森山 『本を読んだ。』の『よんだ。』が『よむ』という形でのっているように、『おきた』も [] という形でのっているよ。」

○8年(中2)(情報と情報との関係について理解しているか問う問題)

標準スコアが2ポイント低かった問題

- 正答 1
- 4 線部アは理由、線部イは考えと関係になっている。
- 3 線部アは理由、線部イは理由と関係になっている。
- 2 線部アは結果、線部イは原因と関係になっている。
- 1 線部アは原因、線部イは結果と関係になっている。

⑥ (1) 【レポートの下書き】の [] 線部アと [] 線部イの関係を説明した文として最も適切なものを、次から一つ選びなさい。

【レポートの下書き】

私たちの住む地域では、近年、ア人口減少が進んでいる。それによって、イ地域の産業や行事の担い手が不足するなどの課題が出ている。地域に住む人々を「定住人口」というが、定住人口が減っている地域の活性化を図るうえで、「関係人口」という考え方があると知った。そこで、関係人口について調べてみたいと思った。

●言語理解(語の変化、情報の関係)に関する問題に課題が見られました。

3年の問題では、活用して変化した形『おきた』を、辞書に載っている元の形『おきる』に直す必要があります。このように、情報をそのまま受け取らず、調べられる形に整理して扱う力が問われています。

8年(中2)の問題では、【レポートの下書き】に書かれている情報と情報との関係を正しく理解する必要があります。選択肢にある「原因」「結果」「考え」「理由」という言葉のうち、「原因」「結果」「理由」は事実、「考え」は意見であるという区別をしたうえで、二つの情報をつなぐ「それによって」という接続語に着目しなければなりません。このように、情報の関係を理解するためには、個々の情報の性質や情報そのものではない接続語にも着目することが大切です。

次年度のステップアップにむけて

国語科の学力向上の視点

「情報の扱い方」は、日常生活の中で、正確な情報を得て正しく発信するためにも大切な学習でござる。



情報を的確に理解し、自分の考えを表現する力の育成

3年の問題では、辞書を引くために言葉を適切に言い換える力が、8年（中2）の問題では、文章中の情報を「原因」「結果」「理由」「考え」といった観点から整理し、関係性を捉える力が求められました。

これらの課題から見えてくる「文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えに生かす力」は、まさに現代を生きる子どもたちにとって不可欠な資質・能力です。

この力を国語科で育成するために、学習指導要領に基づき、学年ごとに段階的な学習を進めていきます。

① 文章に含まれた情報を的確に理解するために

- 1・2年：共通、相違、事柄の順序などについて理解する。
- 3・4年：考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などについて理解する。
- 5・6年：原因と結果などについて理解する。
- 7年（中1）：原因と結果、意見と根拠などについて理解する。
- 8年（中2）：意見と根拠、具体と抽象などについて理解する。
- 9年（中3）：具体と抽象などについて理解を深める。

② 自分の考えを明確にし、表現するために

- 1・2年：語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるようにする。
- 3・4年：自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にする。
- 5・6年：簡単に書いたり詳しく書いたり、事実と感想、意見とを区別して、引用したり、図表やグラフなどを用いたりする。
- 7年（中1）：自分の意見の根拠を明確にする。
- 8年（中2）：説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりする。
- 9年（中3）：表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりする。

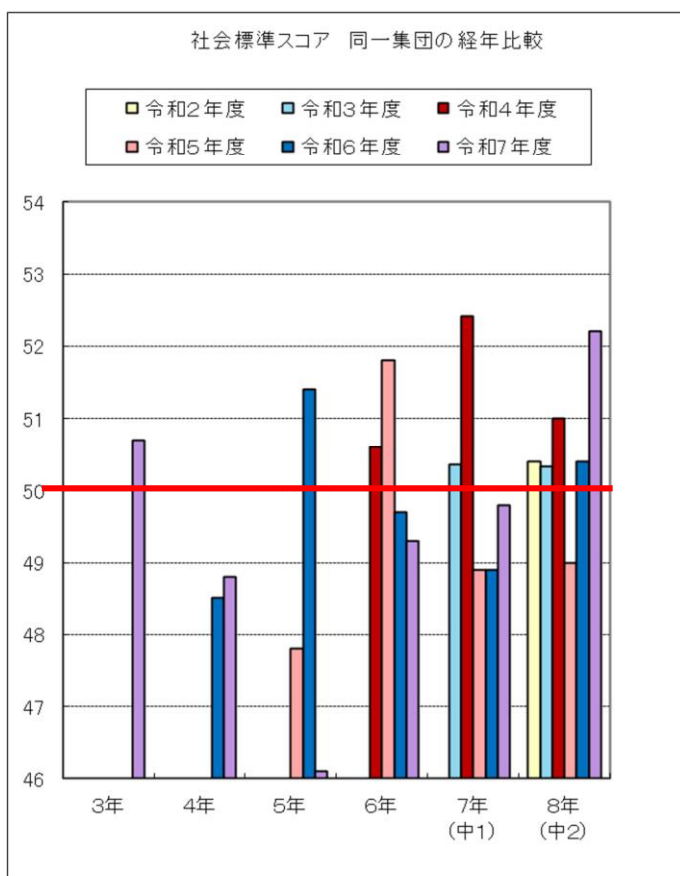
学校では、学年ごとに段階的な学習を進める中で、引き続き教材文を活用しながら具体的な言語活動に取り組んでいきます。例えば、「身近なことや経験したことなど、見聞きしたことを書く」「日記や手紙で、思ったことや伝えたいことを書く」「調べてまとめたことなど、事実やそれをもとに考えたことを書く」といった活動を通して、情報を整理し、自分の考えを表現する力を育てます。さらに、「行事案内やお礼文などを書く」といった言語活動では、具体的な相手を想定したり、目的意識を持って表現したりすることも大切にしていきます。

（まとめ）

学年ごとの発達段階に応じて、その力を段階的に育成していきます。具体的な言語活動を通して、実生活に生かせる表現力を身につけていきます。

算面学力調査〈概要〉社会

学年ごとの標準スコア

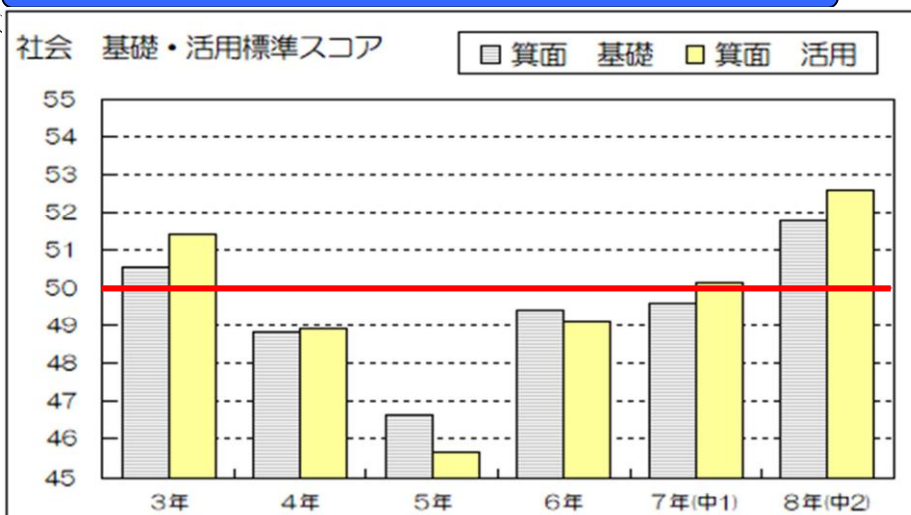


※標準スコア…全国の正答率を50としたときの値のこととごぞる。



- 今年度は、学年によって差はあるものの、3・8年（中2）で標準スコアと比べて高い傾向が見られます。
- 特に8年（中2）で高い水準が見られることが特徴です。

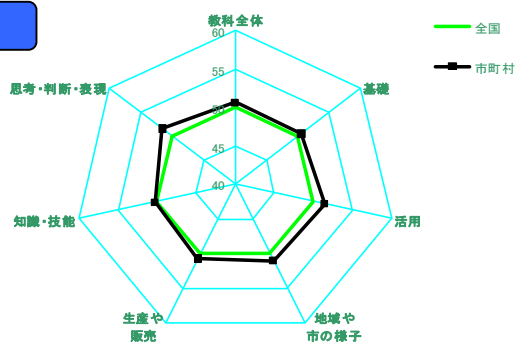
基礎と活用（思考力・判断力・表現力）の状況



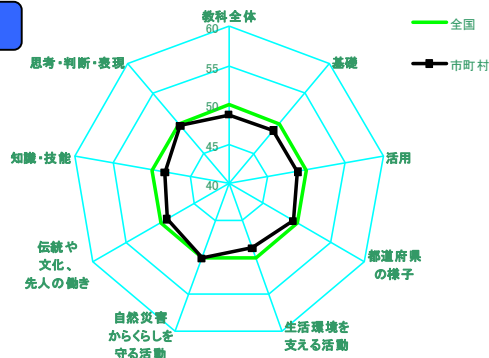
- 社会科は「基礎（知識の理解）」と「活用（資料をもとに考え、説明する力）」の両面で捉えます。
- 今年度は、8年（中2）で基礎・活用ともに標準スコアと比べて高い傾向が見られ、資料をもとに考え説明する学びが結果にも表れています。

標準スコアによるカテゴリー間の比較

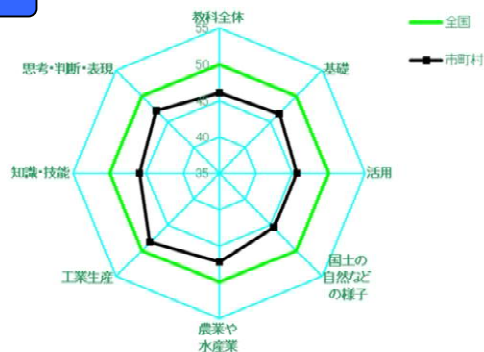
3年



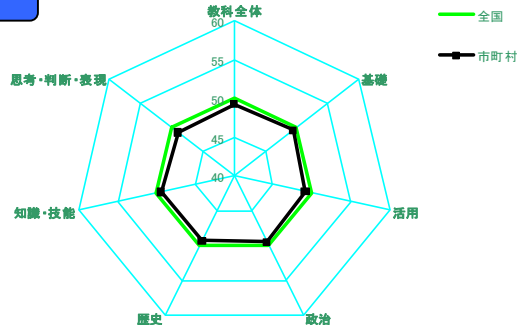
4年



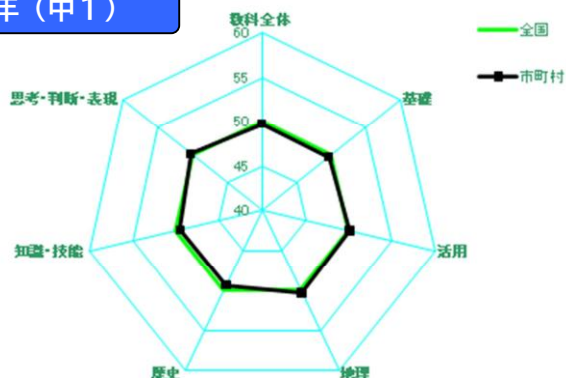
5年



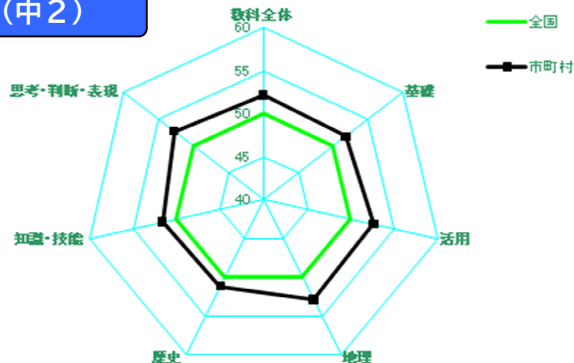
6年



7年(中1)



8年(中2)



●標準スコアと比べて、学年や項目によって差はあるものの、7年(中1)～9年(中3)段階では標準スコアを上回る項目が多いことがデータから確認できます。特に8年(中2)では、教科全体に加えて、活用(資料をもとに考え説明する力)、思考・判断・表現、記述、地理で、標準スコアと比べて高い傾向が見られます。7年(中1)は全体として標準スコアと比べて同程度で、歴史がわずかに低い一方、地理は同程度以上です。

●1年～6年では学年・設問による差が見られ、特に5年では、資料を読み取って判断する設問や、根拠をもとに短く説明する設問で、標準スコアと比べて差が見られる場合があります。これらから、学年が上がるほど求められる「資料を根拠に考え、説明する力」が、8年(中2)で結果として表れていることが読み取れます。

設問例から見てくると

5年 日本の水産業の問題

出題のねらい: 水産物の水揚げについて、資料を読み取っている。

問題5 ほのかさんたちは、日本の水産業について調べました。次の問題に答えましょう。

(1) ほのかさんたちは、水あげ量の多い漁港上位5つと、そこで水あげされる主な水産物についてまとめました。次の地図と表から読み取れることとして正しいものを、あとの1~4から1つ選んで、その番号を書きましょう。

水あげ量の多い漁港とその漁港で水あげされる水産物



漁港名	漁港で水あげされる主な水産物
銚子	いわし、さば、あじ、かつお、さんま
釧路	いわし、たら、さんま
焼津	かつお、まぐろ
石巻	いわし、さば、あじ、かつお
境	かに、さば、いわし

1. 水あげ量の多い漁港は日本海側に多く、主にいわしやかつおなどが水あげされている。
2. 水あげ量の多い漁港は日本海側に多く、主にまぐろやかになどが水あげされている。
3. 水あげ量の多い漁港は太平洋側に多く、主にいわしやかつおなどが水あげされている。
4. 水あげ量の多い漁港は太平洋側に多く、主にまぐろやかになどが水あげされている。

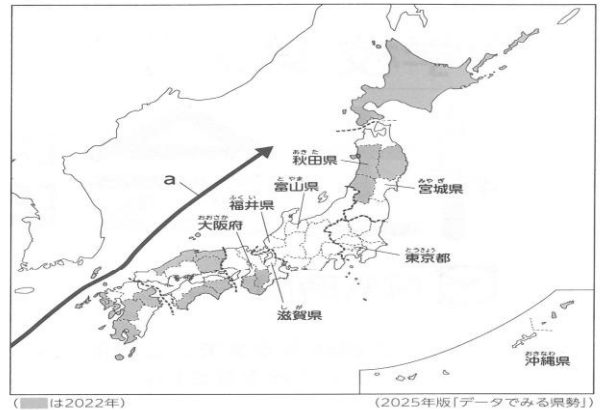
【正答】 3

8年(中2)日本の地域的特色と地域区分の問題

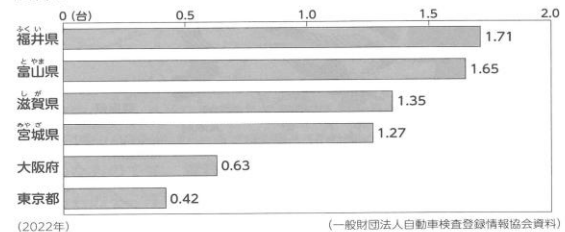
出題のねらい: 日本の交通網の特色についての資料を読み取り、表現している。

問題6 次の資料オは、1ページの地図中の6都府県の1世帯あたりの自動車保有台数、資料カは、資料オと同じ6都府県の鉄道・バスによる旅客輸送人数を示したものです。資料オ・カから読み取ることができる東京都と大阪府に共通する特徴をほかの4県と比べて書きなさい。

地図



資料オ



資料カ

都府県	鉄道 (百万人)	バス (百万人)
福井県	15	8
富山県	35	10
滋賀県	118	20
宮城県	183	59
大阪府	2,619	224
東京都	8,384	763

(2022年度) (2025年版「データでみる県勢」)

解答例: 1世帯あたりの自動車保有台数が少なく、鉄道とバスの利用者数が多い。

- 5年のこの問題は、地図の水揚げの状況と表の水産物の内容を照らし合わせ、根拠をもとに判断する力を見るものです。誤りの背景として、位置関係の確認や量の比較の手順が十分に定着していない場合や、資料より印象で選ぶ場合が挙げられます。今後は資料を見る順序を意識し、根拠を示して短く説明する学びを大切にしていきます。
- 8年(中2)のこの問題は、資料オ・カを比べ、交通網の特色を的確に判断し、表現する力を見るものです。この問題では、2つの資料から都府と県を比べ、交通網の違いを見出すことができていました。今後も、資料を見て考え、分かりやすく説明する学びを大切にしていきます。

次年度のステップアップにむけて

資料の見方を確かめて、根拠をそえて理由を短く書くんだなあ！



社会科の学力向上の視点

社会科の特質に応じて、効果的な学習を展開するために

今年度の結果から、5年・6年では、地図やグラフなどの資料を読み取って判断する力や、理由を短く書いて説明する力に、設問によって差が見られました。一方で、8年（中2）では、資料をもとに考える力や記述に関わる設問で、標準スコアと比べて高い傾向が見られました。次年度は、社会科の学力を「知識」だけでなく、**根拠（資料）をもとに考え、説明する力**として捉え、1年から9年（中3）まで学びがつながる取組を進めます。

具体的方策

1 資料を読む「共通の手順」を定着させます

社会科では、地図・表・グラフ・年表などの資料を読み取る力が求められます。5年から9年（中3）まで、次の手順を授業の中で確認します。

例)「資料の種類を確認する」→「単位・凡例・期間などを見る」→「比べる」→「根拠を示す」→「結論をまとめる」

短時間でも継続し、資料の読み方を確かな学び方として身につけられるようにします。

2 説明（記述）の力は「型」を活用して育てます

記述問題は、内容を理解していても表現に迷うことがあります。書き方の型（例：「資料から～が分かる。だから～と考えられる。」）を参考にしながら、段階的に自分の言葉で説明できるようにします。

1年～6年では短い1文から、7年（中1）～9年（中3）では根拠と理由を含む説明へと、学年に応じて発展させます。

3 重要な言葉（用語）は、意味と使い方を結びつけます

用語は、「意味」「具体例」「つながり」をセットで扱い、資料読解や記述で活用できる理解につなげます。

4 6年～7年（中1）へのつながりを強化します

6年～7年（中1）を「接続期」として、資料を読む手順や記述の型を同じ考え方で扱い、学びが途切れないようにします。特に歴史では、出来事を「原因→結果→影響」の視点で整理します。

5 学習の途中で理解を確かめ、授業改善につなげます

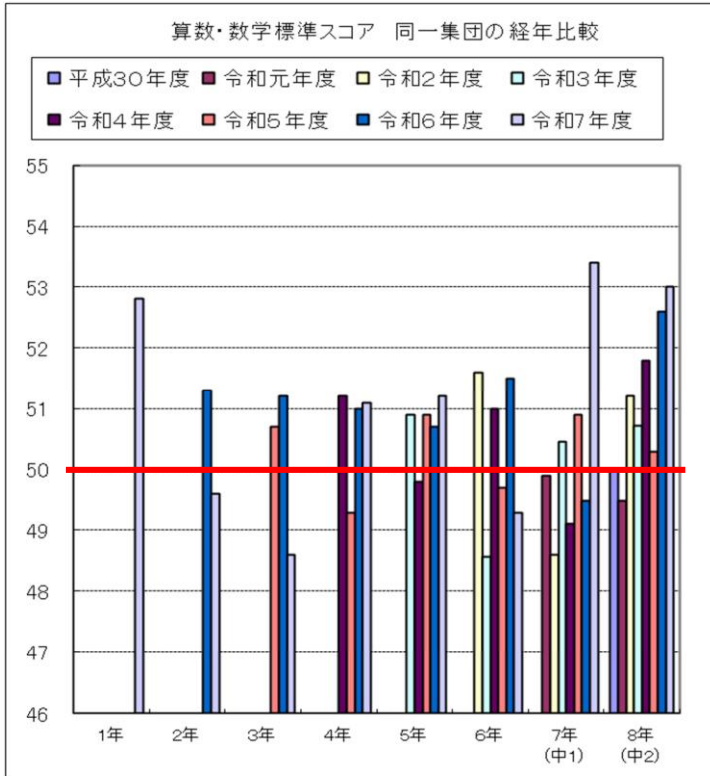
授業の途中で理解を確かめ次の学びに生かします。授業の終わりに短いまとめや資料の読み取りのポイント共有を行い、次の授業に反映していきます。

まとめ 次年度は、5年・6年で見られた状況を踏まえ、資料の読み取り方と説明の仕方を小中で共通化します。8年（中2）で見られる良い傾向（活用・記述）も参考にしながら、資料を根拠に考え、分かりやすく説明できる学びへと高めていきます。

算面学力調査〈概要〉算数・数学

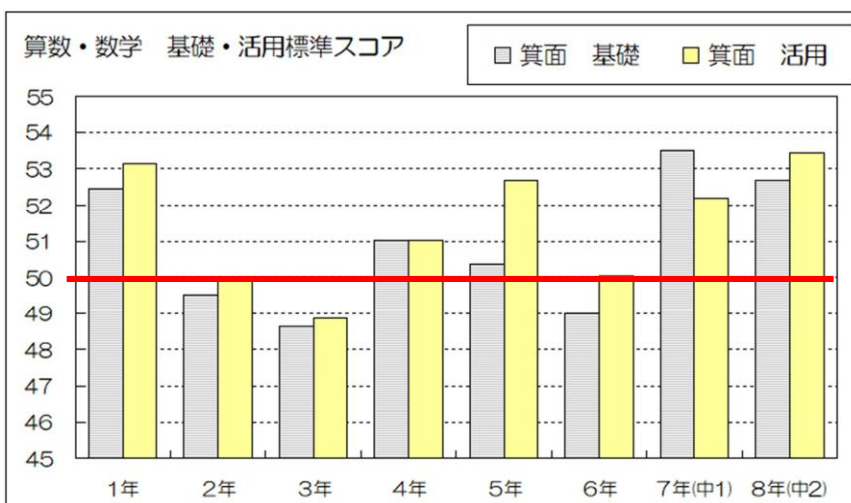
学年ごとの標準スコア

※標準スコア…全国の正答率を50としたときの値のことをごさる。



- 2年・3年・6年以外は標準スコアを上回っています。
- 経年比較を見ると、特に7年（中1）が昨年度と比較して大きく伸びています。

基礎と活用（思考力・判断力・表現力）の状況



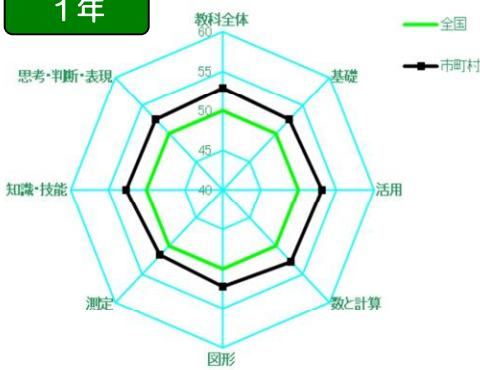
標準スコアと比較して「活用」の力が定着しているね。



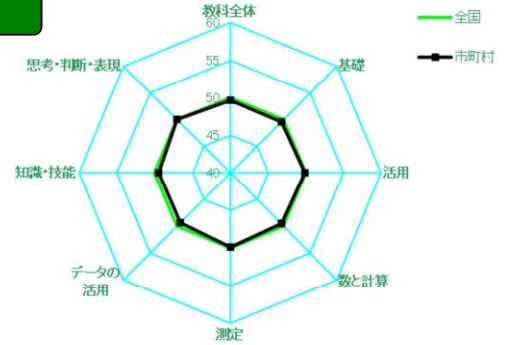
- 多くの学年で「活用」が標準スコアを上回っています。
- 1年・4年・7年（中1）・8年（中2）においては「基礎」及び「活用」のどちらも標準スコアを大きく上回る結果となりました。

標準スコアによるカテゴリー間の比較

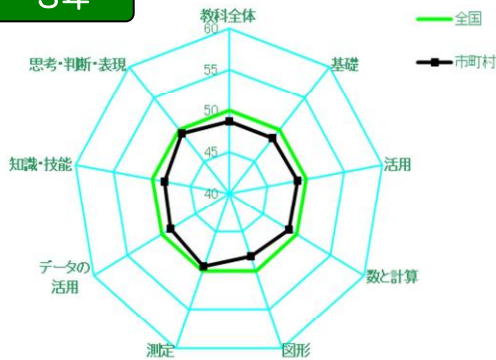
1年



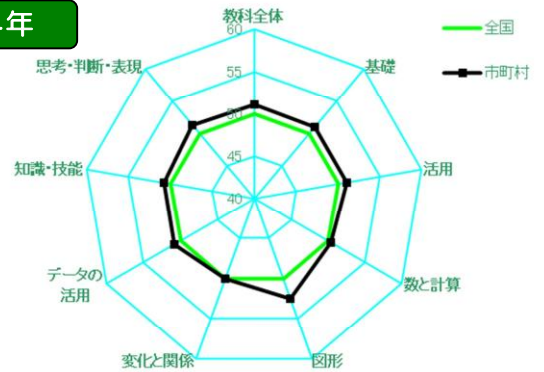
2年



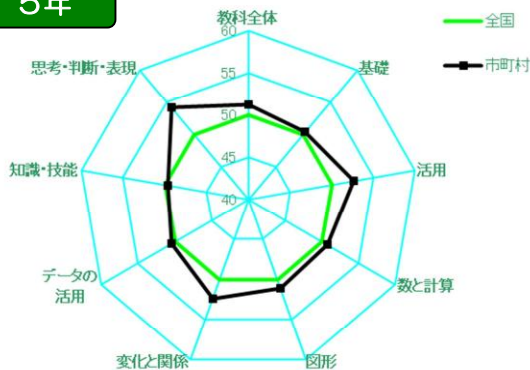
3年



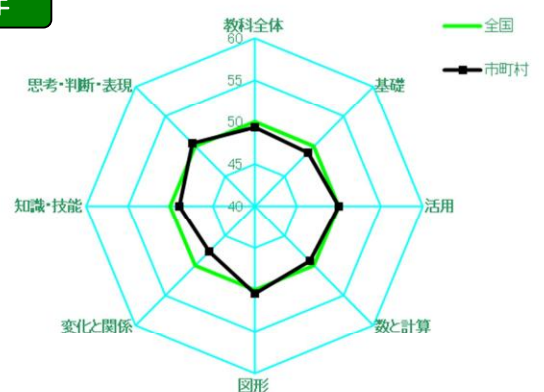
4年



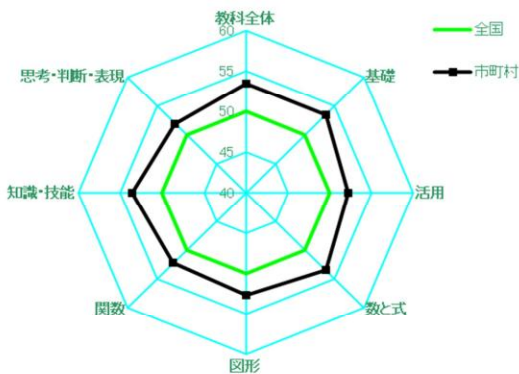
5年



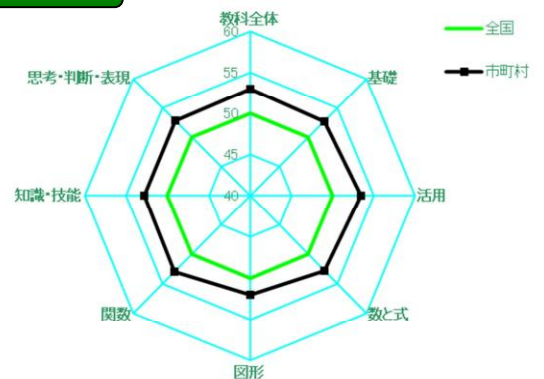
6年



7年(中1)



8年(中2)



- 1年・4年・7年(中1)・8年(中2)が全項目で標準スコアを上回っています。
- 2年及び3年に共通して、「データの活用」が標準スコアを下回っています。

設問例から見えてくること

6年 12 (3)

(比を使って、全体の量から一方の量を求める答えを選ぶ問題)

(3)
あたりとはずれの本数の比が3 : 5になるようにくじをつくります。

全部のくじの数を120本にするとき、あたりは何本になりますか。

答えは1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 15本 2 40本

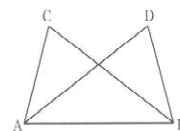
3 45本 4 75本

正答 ③

8年 (中2) 14

(証明の必要性と意味を理解し、正しい説明を選ぶ問題)

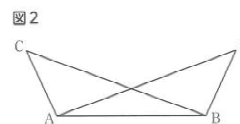
14 線分ABと2点C、Dがあり、点AとC、点BとC、点BとD、点AとDをそれぞれ結びます。このとき、 $AC=BD$ 、 $\angle CAB=\angle DBA$ ならば $\angle ACB=\angle BDA$ になることを、あるクラスでは、図1をかくて次のように証明しました。



【証明】

$\triangle ABC$ と $\triangle BAD$ において
 仮定から $AC=BD$ ①
 $\angle CAB=\angle DBA$ ②
 AB は共通だから $AB=BA$ ③
 ①、②、③より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから
 $\triangle ABC=\triangle BAD$
 合同な図形の対応する角は等しいから
 $\angle ACB=\angle BDA$

この証明をしたあと、 $AC=BD$ 、 $\angle CAB=\angle DBA$ は変えずに、2点C、Dの位置を図1とは変えた図2をかくて、同じように $\angle ACB=\angle BDA$ になるかどうかを考えてみました。正しいものを1～4から1つ選びなさい。



- 1 図2の場合は、 $\angle ACB=\angle BDA$ ではない。
- 2 図2の場合は、 $\angle ACB=\angle BDA$ であることを、改めて証明する必要がある。
- 3 図2の場合は、 $\angle ACB=\angle BDA$ であることを、 $\angle ACB$ 、 $\angle BDA$ の大きさを測って確認しなければならない。
- 4 図2の場合も、 $\angle ACB=\angle BDA$ であることは、すでに上の【証明】で示されている。

正答 ④

●6年の大問12(3)では、「あたり」と「はずれ」の比をもとに全体の本数を比の合計で分けて1つ分の本数を出し、その数に「あたり」の比をかけて求めるという手順を理解する力と、比や分数の意味を正しく捉え、どちらを基準にして考えるかを判断する力が必要です。

この問題は標準スコアを下回る結果になりました。

●8年(中2)の大問14は、図形の見ただけではなく、条件を適切に判断する力が求められています。文章を読んで、与えられた条件から証明の役割や意味を理解し、正しい回答を選択する必要があります。

この問題は、標準スコアを下回る結果になりました。

計算して答えを導き出すだけでなく、自分の考えを言葉にして発表することで理解が深まったり、友だちと考えを交流したりする中で新たな考えを発見することができるでござる。



次年度のステップアップにむけて

算数・数学科の学力向上の視点

思考力・判断力・表現力を育てるために

生きて働く『知識・技能』、未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力』、学習を通して学んだことを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性』という3つの資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくりを進めています。

1 主体的な学びに向かうための問題提示

- 子どもたちにとって身近な日常生活の場面を問題に取り入れたり、生活の中で算数・数学が活用される場面を具体的に想起させたりします。
- 実際に使えるもの（具体物）を用意したり、問題の場面をみんなで体験したり、タブレット端末などのICT機器を活用したりして、子どもたちがイメージしやすいように工夫します。

2 見通しを持つ・対話で考えを深める

- 子どもたち自身が、既習事項が活用できないか、これまでの問題との違いは何か等に着目し、「□□の時の問題と似ている」「□□を活用すれば解けるのではないかな」などの見通しを持つことが重要です。
- 自分なりの考えを友だちと伝え合う中で、自分の考えとの共通点や相違点に着目し、必要な情報を抜き取ったり比較検討したりして理解を深めます。
- 複数の解法から多様な考え方や捉え方を知り、様々な角度から検討することで問題解決の過程を統合的・発展的に考えられるようになり、よりよい問題解決の方法を見出し、それらを活用して新たな学びに向かうことができるようになります。

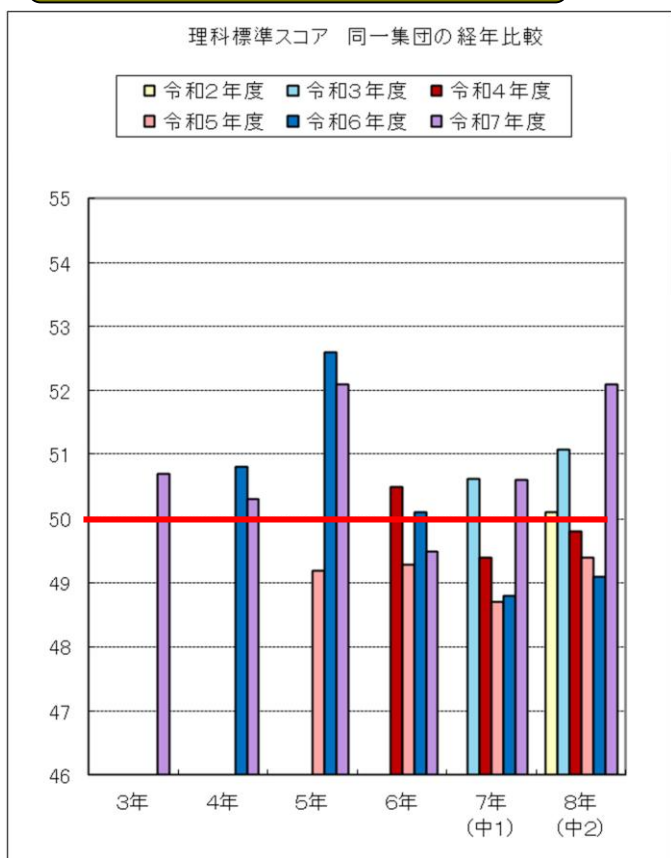
3 まとめ・ふりかえり

- 子どもたちは、式、計算によって求めた過程や答えの意味するものは何かを言葉・図・式で表現しながら理解を深め、知識や技能を身につけます。
- 授業の中で自分はどんなことがわかったのかをふりかえります。数学的な見方・考え方を働かせ、次の学びに生かしてみようという意欲を持ちます。
- 論理的、統合的・発展的に考えることなど、算数・数学で培った思考をもとに、他教科での表現力や判断力へ生かしていけるよう関連付けます。

子どもたち一人一人が数学的な見方・考え方を働かせながら、既習事項を活用したり、対話をとおして多様な考え方に会ったりすることで、問題解決の過程を統合的・発展的に考察し、新たな問題解決に活かせるようにすることをめざした授業づくりに取り組んでいきます。

箕面学力調査〈概要〉理科

学年ごとの標準スコア

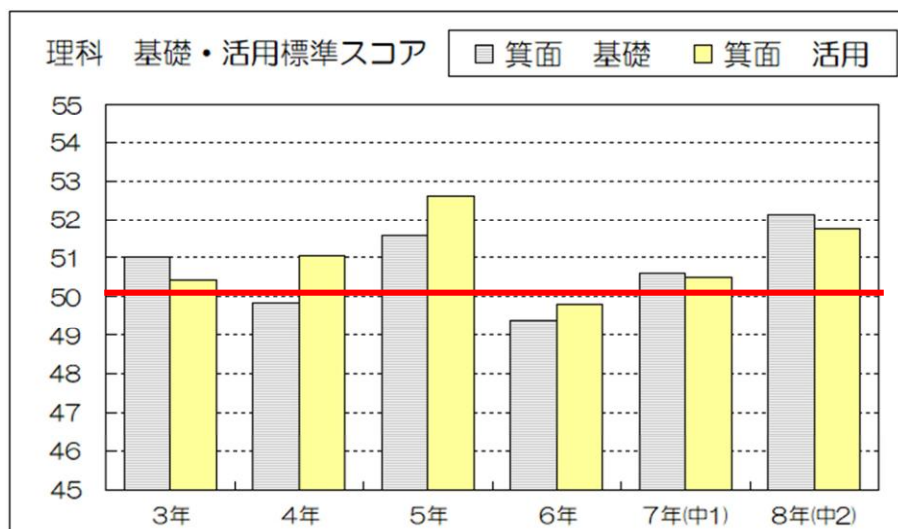


※標準スコア…全国の正答率を50としたときの値のことでござる。



- 3年、4年、5年、7年（中1）、8年（中2）は、標準スコアを上回っています。
- 同一集団の経年比較で、7年（中1）と8年（中2）が昨年度を上回っています。（3年は昨年度無し）

基礎と活用（思考力・判断力・表現力）の状況



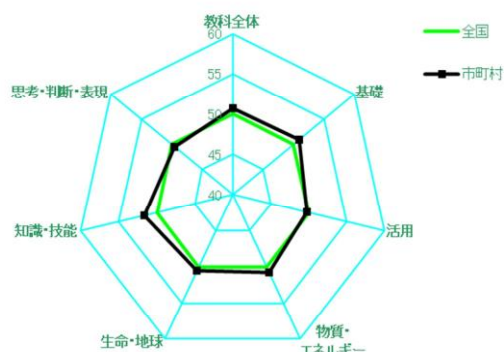
4年、5年、6年は「基礎」の力より「活用」の力が高いよ。3年、4年、5年、7年（中1）、8年（中2）は「活用」の力が標準スコアを上回っているね。3年、5年、7年、8年で「基礎」の力も標準スコアを上回っているよ。



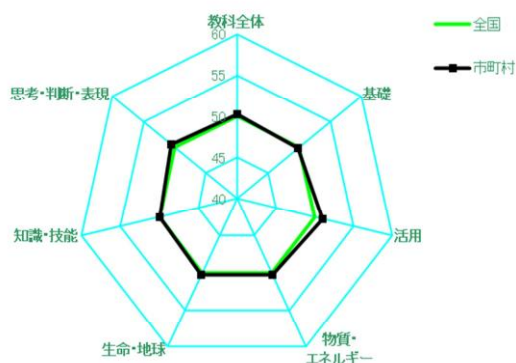
- 3年、5年、7年（中1）、8年（中2）は「基礎」「活用」どちらも標準スコアを上回っています。特に5年、8年（中2）は標準スコアを大きく上回っています。

標準スコアによるカテゴリー間の比較

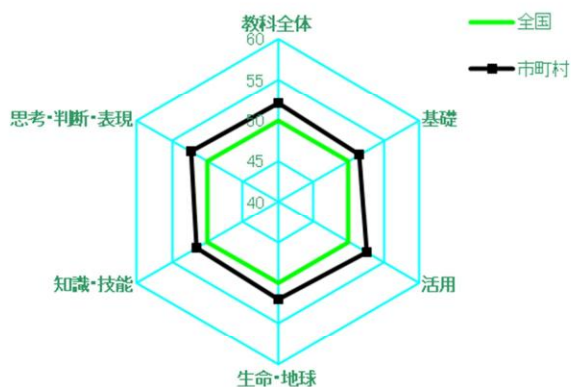
3年



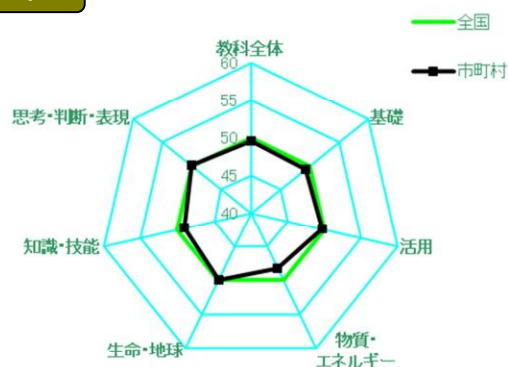
4年



5年



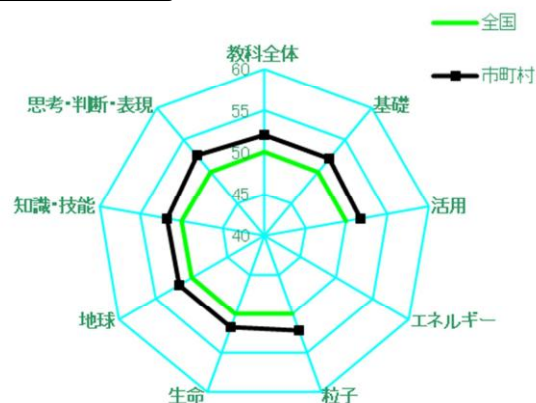
6年



7年(中1)



8年(中2)

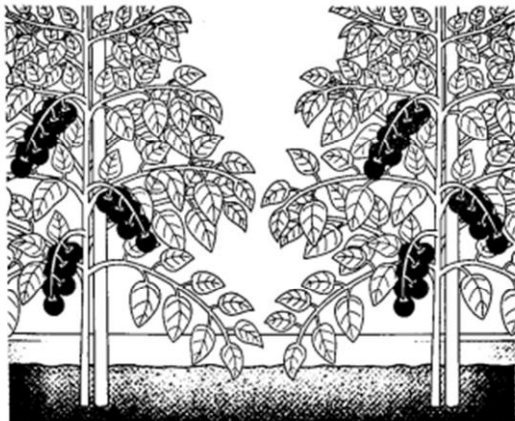


- 5年、8年(中2)は、全ての観点において標準スコアを大きく上回りました。
 - 6年で「知識・技能」の観点で標準スコアを下回りました。
 - 3年の「知識・技能」、7年(中1)の「エネルギー」は標準スコアを大きく上回りました。
- ※ 8年(中2)の「エネルギー」の項目については、テストの項目が無かったため、グラフには反映していません。

設問例から見てくると

3年「生命・地球」領域「植物の育ち方」の「思考・判断・表現」の力を問う活用問題です。

はるかさんは、近所の家の庭で、ミニトマトの実ができていたのを見つけました



はるかさんは、これについて次のように話しています。はるかさんの話の()にあてはまる言葉を書きましょう。

ミニトマトの実ができていますね。
実は()ので、ミニトマトも花をさかせると考えられますね。



はるかさん

正答例 花をさかせたあとにできる

正答率が低かった7年(中1)「エネルギー」領域「光の性質」の「科学的な知識・技能」の力を問う基礎問題です。



海斗さん

昨日の夜、部屋の窓から外の景色を見たら、窓に自分の顔がうつってしまい、見えにくかったんだよ。

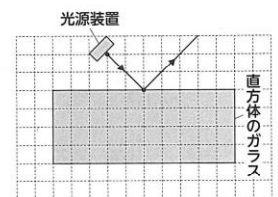
昼間であれば、自分の顔がうつることなく、外の景色が見えるのに不思議だね。



莉央さん

〔実験〕

右の図のように、窓ガラスのかわりに直方体のガラスを用いて、光源装置から直方体のガラスに向けて、 45° の角度で光を入射させた。



〔結果〕

直方体のガラスの表面ではね返る光と直方体のガラスの中に進む光が観察できた。

※ただし、右の図では、直方体のガラスに入射した光と反射した光の道筋のみが示されています。

問題 この実験で、光源装置から出た光が、直方体のガラスの中に入って進み、直方体のガラスから再び空気中に出て行く時の、予想される光の道筋を作図しなさい。

光が異なる物質を進むときに屈折するという性質を基に、直方体のガラスに入射した光が外に出て行くまでの光の道筋を作図できるかを問う問題です。

- 3年で取り上げた問題は、大きく標準スコアを下回りました。2年生の生活科で学習する、「花が咲く→花がしぼむ→実ができる」という流れを理解していることが必要です。はるかさんの話の「花を咲かせると考えられますね」から考えることもできます。また、標準スコアを下回ったのは、記述問題であったことも関係していると考えられます。
- 7年(中1)で課題として取り上げた問題は、標準スコアを下回りました。一つ前の問題で光の入射角と屈折角の関係についての問いも標準スコアを下回り、光が異なる物質を進むとき、どのように屈折するかを理解しているかに課題がありました。例えば、光が空気側からガラス(または水)に進むとき、必ず空気側の角度が大きくなるという性質を理解していれば、入射角と屈折角の関係がわかります。その「光の屈折」を理解した上で、知識を基に作図で表す技能が必要となる問題でした。

次年度のステップアップにむけて

学習したことを実生活や身近な自然事象と結び付けることが大切でござる。



理科の学力向上の視点

問題解決や科学的な探究のプロセスを通して、学習を通して身に付けた知識を活用することができるような指導の充実

【理科における探究の過程】

<課題の把握（発見）>

- 主体的に自然現象とかかわり、それらを科学的に探究しようとする
- 自然事象を観察し、必要な情報を抽出・整理する
- 抽出・整理した情報について、共通点や相違点などや傾向を見出す

<課題の探究（追求）>

- 見通しを持ち、検証できる仮説を設定する
- 観察や実験の計画を立て、実行し、結果を処理する

<課題の解決>

- 観察・実験の結果を分析・解釈すること
- 新たな知識やモデルなどを考え、次の課題を発見する
- 事象や概念などに対する新たな知識を再構築したり、獲得したりする
- 学んだことを次の課題や、日常生活や社会に活用しようとする

●主体的・対話的で深い学びの視点について

児童生徒一人一人が問題や課題を見出すことを価値づけ、他者の考えに触れ、自分の考えの妥当性を検討している様子を大切にしています。また、予想や仮説を設定する場面を充実させ、観察や実験が作業にならないように目的意識を持つことで、知識・理解が深まります。

●ICT 機器を用いて

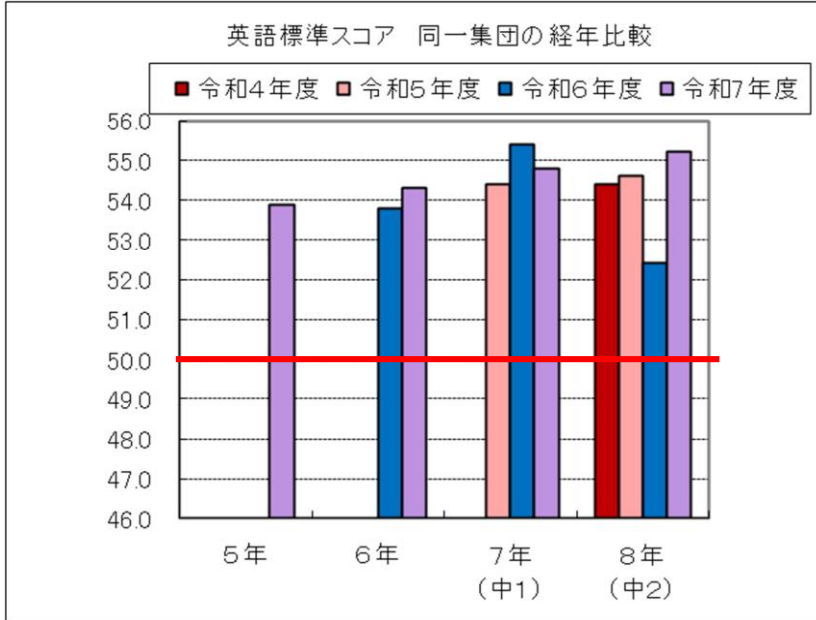
観察、実験などは直接体験だけでなく、内容に応じて、タブレット端末やインターネットを適切に活用することで、学習の場を広げたり、学習の質を高めたりできます。また、観察や実験のデータ処理やグラフ作成をすることで規則性や類似性を見出すことにつながります。

（まとめ）

- 問題解決や科学的に探究する学習の一層の充実を図るために、「探究の過程」を意識した授業を展開し、個々の児童生徒が問題を科学的に解決できるような学習を充実させていきます。
- 学習したことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめ、理解を深めたり、役立っていることを捉えたりする活動を大切に、理科を学ぶことの意義や有用性を感じられるような学習を今後も充実させていきます。

箕面学力調査〈概要〉英語

学年ごとの標準スコア



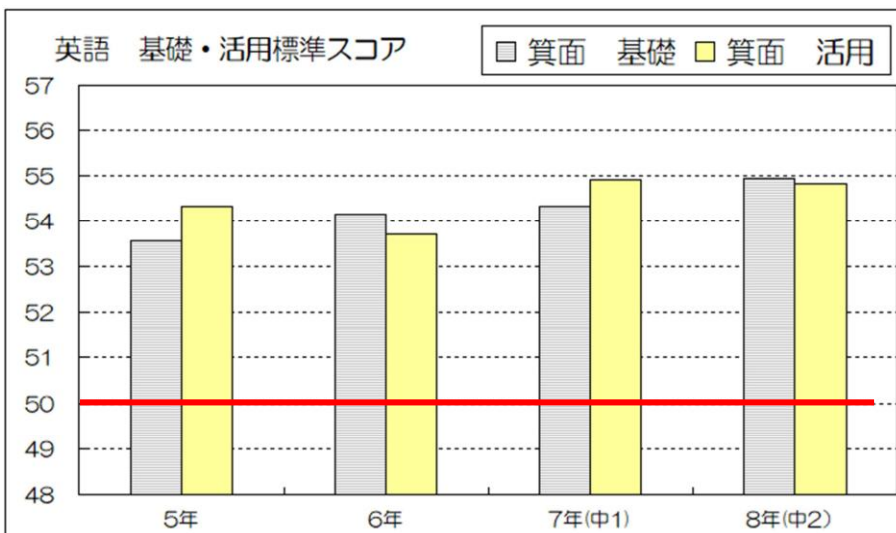
※標準スコア…全国の正答率を50としたときの値のこと
でござる。



箕面市の児童生徒の英語力は高い水準で推移しており、今年度も同様の傾向です。

- 5～8年(中2)はいずれも標準スコアより高い結果となっています。
- 8年(中2)においては、標準スコアよりも5ポイント以上高い良好な結果となっています。

基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況



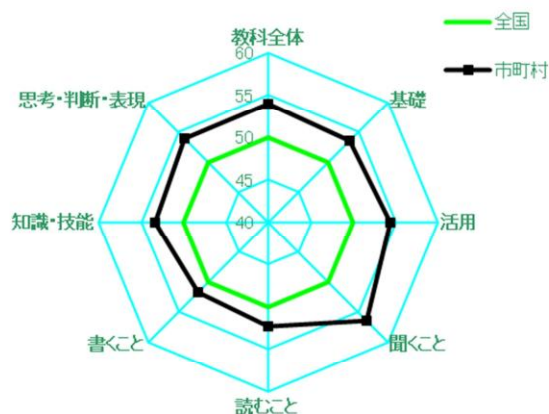
1年から継続して学習している効果が見られるね。



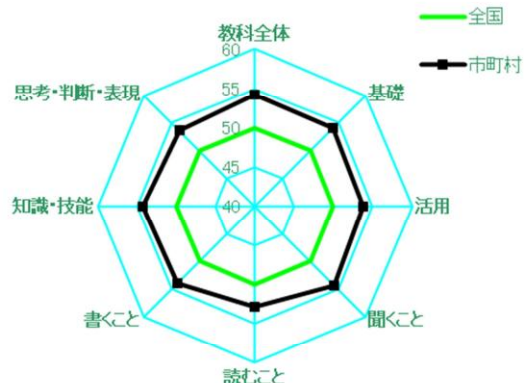
- どの学年も「基礎」「活用」とともに標準スコアを上回っています。「基礎」「活用」とともに、学年が上がるごとに少しずつ高くなる傾向が見られます。

標準スコアによるカテゴリー間の比較

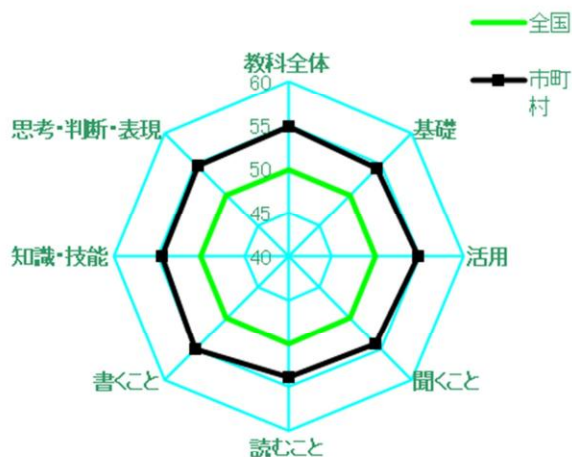
5年



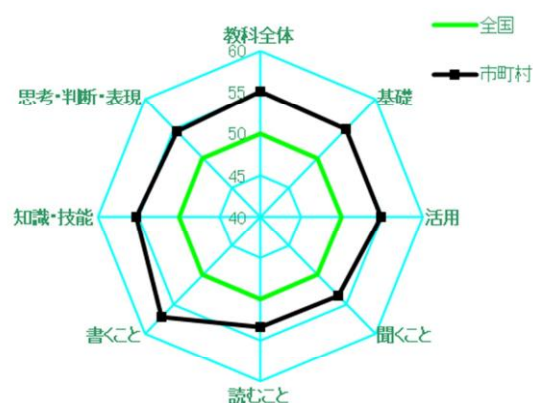
6年



7年 (中1)



8年 (中2)



- 全学年、全項目で標準スコアを上回る結果となりました。
- 6年、7年 (中1) では、どの項目もバランス良く標準スコアを上回っています。
- 5年では、「聞くこと」が他の項目と比べて標準スコアを上回る結果となりました。1年から行っている、グローバルタイムで英語に触れる時間を保証していることが成果の要因と考えられます。
また、8年 (中2) では「書くこと」の項目において、標準スコアを上回っています。授業で、自分の思いを書いて、表現する機会を多く設けていることが高い数値の要因だと考えられます。

設問例から見えてくること

●6年 12 (英文の完成)

12 れいなは、英語の授業で、自分のあこがれの人(My hero)を紹介するカードを作ることになりました。次の【紹介カード】は、れいなが、あとの【メモ】からみんなに伝えたい情報を選んで書いたものです。【紹介カード】の3か所の□に共通して入る言葉を、下の□から選んで書きましょう。【紹介カード】の□に入る言葉は、それぞれ【メモ】の中から選んで書きましょう。 ●●●

【紹介カード】

My Hero

I like Ms. Koyama.

is a doctor.

is good at.

can play thewell.

【メモ】

MEMO

名前：Ms. Koyama (女性)

職業：doctor

出身地：Nagoya

性格：kind

得意なこと：cooking

得意な楽器：piano

I You He She We

「メモから必要な情報を読み取り、紹介文の形式に合わせて書く問題」

※標準スコアを上回ったが、他の問題に比べて正答率が低かった問題

(正答)

She

She / cooking (完答)

She / piano (完答)

本問は、【メモ】から適切な言葉を選択するものですが、□の部分は共通して入る言葉を選ぶ必要がありました。書く活動は、英語が得意な児童と苦手な児童で個人差が大きく出てしまいます。そのため、子どもたちが言語の働きを身につけられるよう、一層の丁寧な指導が大切です。

●7年 (中1) 7 (4)

「対話文を読み、文構造や文法事項を理解しているか問う問題」

※正答率が最も低かった問題

(1) 次の①～④の対話文が成り立つように、()に入る最も適切なものを、あとの1～4から1つずつ選びなさい。 ●●●●

① A : Does Kenta like music?

B : Yes, he () sings very well.

1 is

2 does

3 sing

4 sings

(正答例) ④

本問は、正答率が最も低かった問題です。(正答率20.6%)

6割以上の生徒が、2番の「does」を選択しており、A:の「Does～」の疑問文の部分だけを見て、回答した生徒が多いと考えられます。

主語、動詞、目的語などの基本的な文型を理解し、文として表現していることは何か、最後まで確認することが大切です。

英検 IBA の結果について

令和7年度、英検 IBA における、英検3級レベル相当以上の英語力を有する生徒（9年（中3））の割合は73.7%でした。

次年度のステップアップにむけて

英語科の学力向上の視点

9年間を通して…

「目的や場面・状況等」を設定し、「英語を使う必然性」がある授業づくりを進めます。また、複数 ALT（英語指導助手）とのチームティーチングの機会を生かし、主体的・積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする子どもを育成します。

■ 1、2年 外国語活動 「慣れ親しむ」

歌やゲーム、体を使う等体験的な活動を通して、「聞くこと」「話すこと」に慣れ親しみます。

■ 3、4年 外国語活動 「伝える」

自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な英語の語句や基本的な表現を用いて伝える活動に取り組みます。

■ 5、6年 外国語科 「伝え合う」

日常生活に関することや身近で簡単な事からについて、自分の考えや気持ちなどを基本的な語句や表現を用いて伝えあう活動に取り組みます。物や写真を使ったプレゼンテーションにも取り組みます。十分に慣れ親しんだ英語の語句や表現については、「読むこと」「書くこと」に取り組みます。

■ 7～9年（中1～3） 外国語科（英語科）・英語コミュニケーション科 「つながる」「発信する」

（外国語科（英語科））

1～6年での学びを生かし、身近なことや、関心のある話題について、話す内容をあらかじめ準備することなく、英語で会話する活動に取り組みます。また、ニュースや説明文、データなどの情報を読んだり聞いたりし、気づいたことや自分の考え等を英語で効果的に表現する活動に取り組みます。

（英語コミュニケーション科）

1～6年で学んだこと、週4時間の外国語科（英語科）で学習したことを生かし、興味・関心のある事柄について、調べたり、情報を得たりしたことをもとに英語で発信する活動に取り組みます。

箕面学習状況調査・生活状況調査 〈概要〉

- 調査は箕面市の肯定率を全国と比較
- 回答は、「そう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4つから選択
- 肯定率とは、選択肢の「そう思う」と「少しそう思う」の割合を単純に合計した値

【自己認識】箕面っ子の自己肯定感

家族とのかかわり

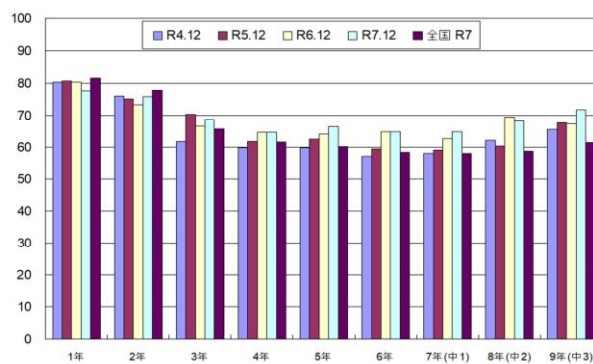
- ◆ 本当につらいことがあったとき、それを家の人のだれかに相談できますか。



安心して相談するでござる！

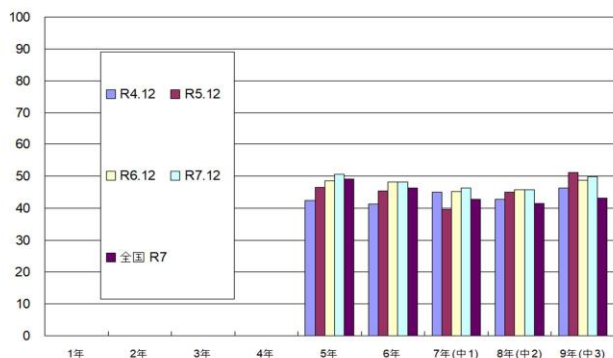
先生とのかかわり

- ◆ 本当につらいことがあったとき、それを学校の先生に相談できますか。

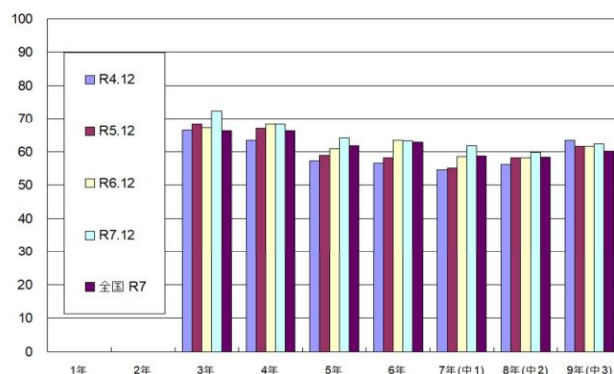


他者からの評価

- ◆ あなたの発言は、クラスのみなを動かす力があると思いますか。



- ◆ 学校の授業やクラスの役割などで、自分は先生から期待されているんだな、友だちからたよりにされているんだな、と感じることがありますか。



自己肯定感を「家族や先生との関わり」「他者からの評価」の2点から分析しました。「家族や先生に相談できる」と回答した割合は、ほとんどの学年が全国と比べて高くなっています。「先生に相談できる」と回答した割合は、全国と比べて小学校低学年において低く、成長するにつれ高くなる傾向にあります。

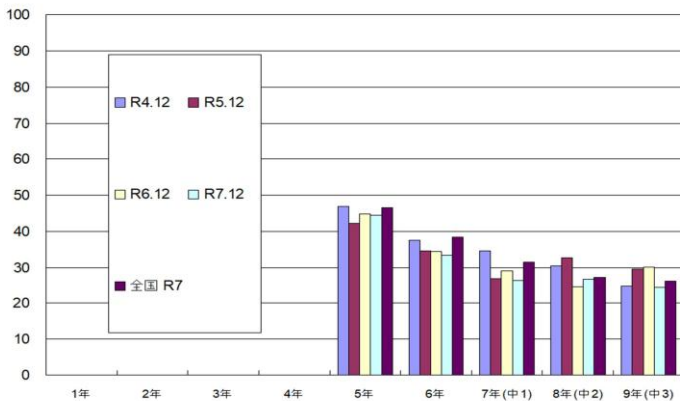
「自分にはクラスを動かす力がある」「期待されている、頼りにされている」と思っている子どもは、昨年度と比べて高い傾向にあり、全国と比べても高く推移していることが分かります。

困ったことがあったら、「助けて」と言えることも大切な力だよ！

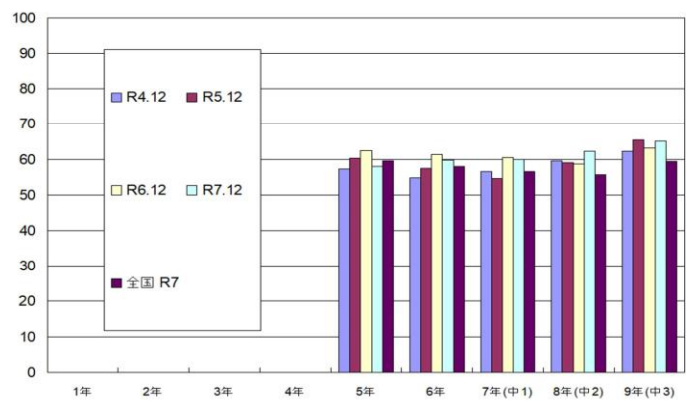


【社会性】 ソーシャルスキルは・・・

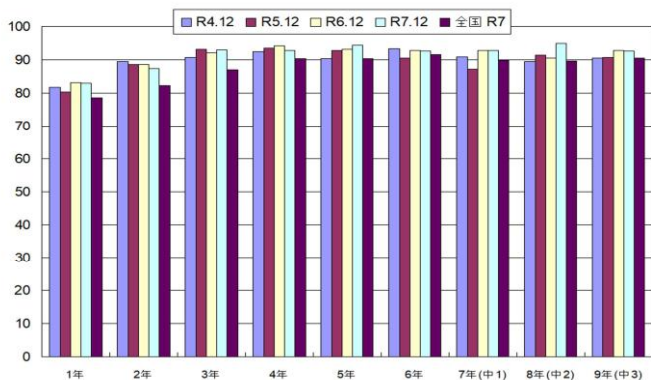
◆あなたは、学校生活の中で何回ぐらい、自分の意見を発表したり、先生の質問に答えたりしていますか。



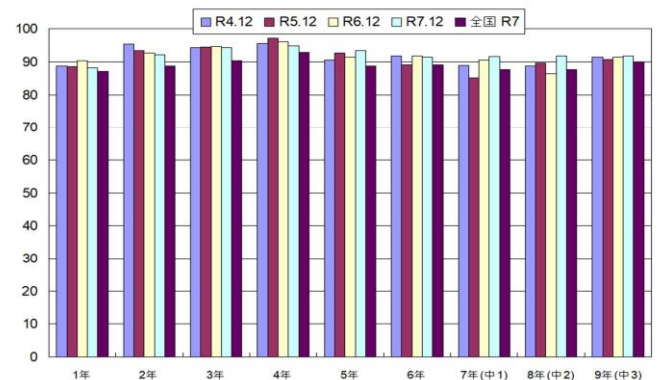
◆クラスの話し合いや友だちとの間で意見が合わなかったとき、みんなが納得できるように考えて、提案していますか。



◆学校の授業では、友だちと教え合う時間がありますか。

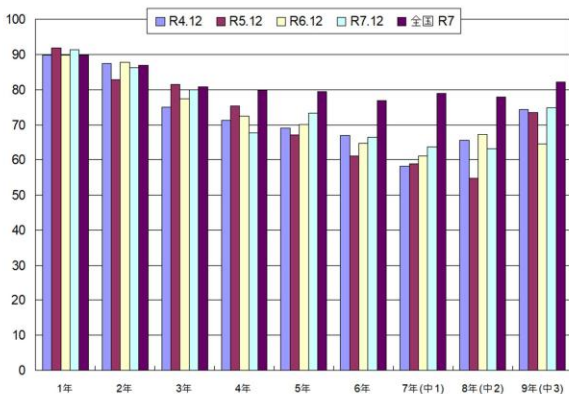


◆学校の授業では、とんだり同士やグループで話し合ったり、議論したりすることがありますか。

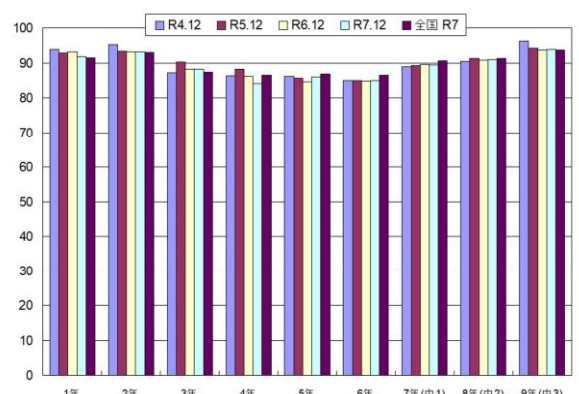


「意見の発表」は、全国と比べて低い傾向にあります。一方、「考えの提案」の項目は全国と比べて肯定率がほとんどの学年で高い結果となりました。「教え合い」や「話し合い、議論」については、ほとんどの学年で90%を超える高い値となりました。思いや考えを伝え合う授業が各校で実施された成果が、児童生徒の意識変化に表れているのではないかと考えます。

◆あなたのクラスでは、みんながそうじ当番や係の仕事を、責任をもってしていますか。



◆学校の規則や、クラスで話し合って決めたことを、守っていますか。



「そうじ当番や係の仕事をやる」項目は、全国と比べて低い肯定率でしたが、「学校の規則やクラスで話し合ったことを守る」項目は、同程度の結果となりました。子どもたちが、主体的に仕事に取り組めるよう、肯定的な声かけを続け、当番や係の意義を考えられるような取組を進めていきます。

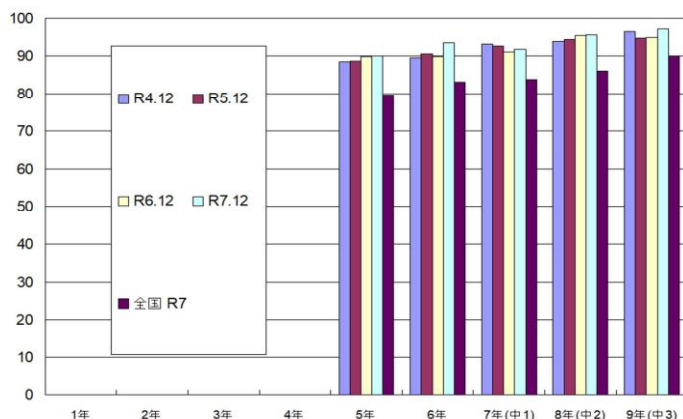
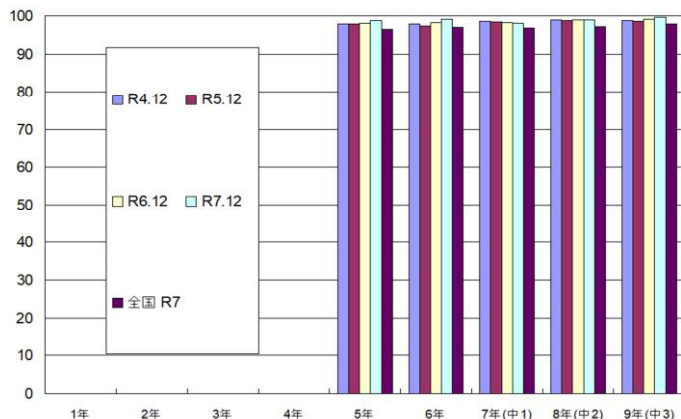
【対人ストレス】いじめのサイン

このグラフは、ポイントが高いほど良好なのでござる！



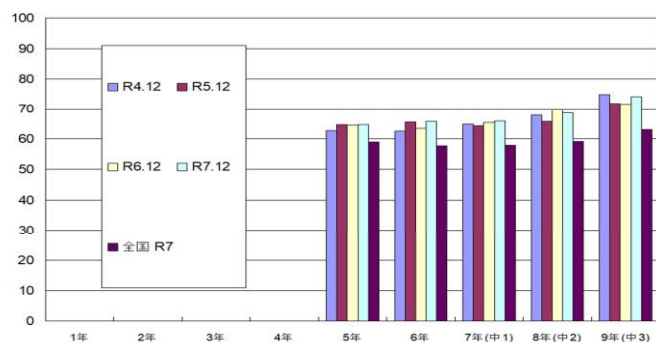
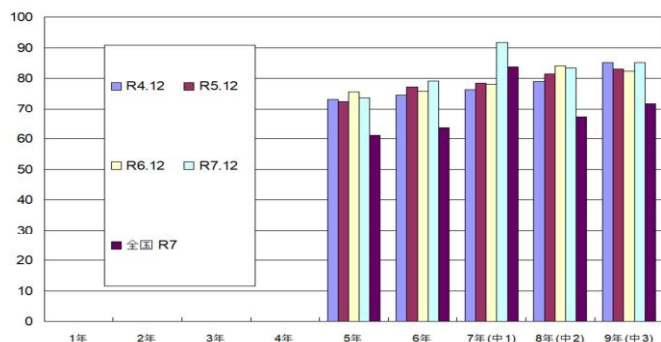
◆SNS上で仲間外れにされたり、ひどいことを書かれたりして、傷ついたことがありますか。
⇒「一度もない・前はあった」と回答した割合

◆自分がいつ、いじめのターゲットになってしまうか、不安を感じることがありますか。
⇒「一度もない・前はあった」と回答した割合



◆信じていた友だちから、思いもよらぬ言葉を聞かされたり、つらい態度をとられたりして、傷ついたことがありますか。⇒「一度もない・けんかにしても傷つくことはない」と回答した割合

◆仲のいい友だちでも、本音では自分のことを悪く思っているかもしれない、と不安に思うことがありますか。⇒「一度もない・前はあった」と回答した割合



SNS上でいじめにあったことがないと回答している子どもの割合が全国と比べて高い結果となっています。また、「対人ストレス」を感じていない子どもの割合も例年、全国より高い結果が出ています。「不安を感じたことがない」と回答した割合は全国より高く、本市の児童生徒は、いじめのターゲットになることへの不安は比較的低い傾向が見られます。

しかし、「信じていた友だちから、つらい態度をとられて、傷ついた」「仲のいい友だちの本音が不安だ」という質問においては、「一度もない」と回答している子どもの割合が全国と比べて高い結果が出ていますが、2～3割の子どもが傷ついたり不安に思ったりしていると回答していることが分かります。漠然とした「自分がいじめのターゲットになってしまうのではないか」という不安は感じていないが、仲のいい友だちとの関係に不安を感じている傾向が伺えます。

こうしたデータを踏まえ、各学校においては、学級・学年における人間関係づくり、いじめやネットトラブルの未然防止の授業、情報モラルに関する学習などの取組を引き続き行っていきます。また、周りの大人も、子

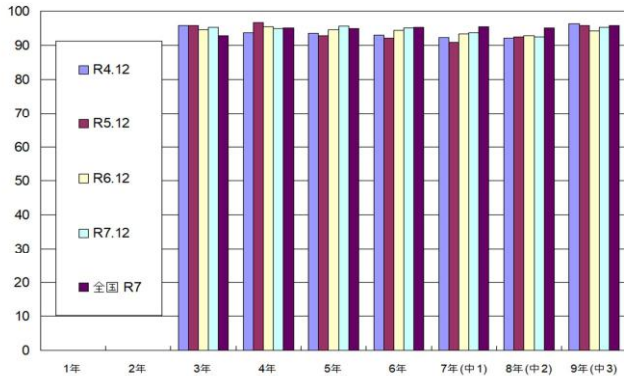
どもたちからのサインを見逃さないよう、しっかりと見守っていく必要があります。

自分の心を守ることは、とっても大切。困ったことがあったら相談しようね！



【学級の絆】 仲間の意識は・・・

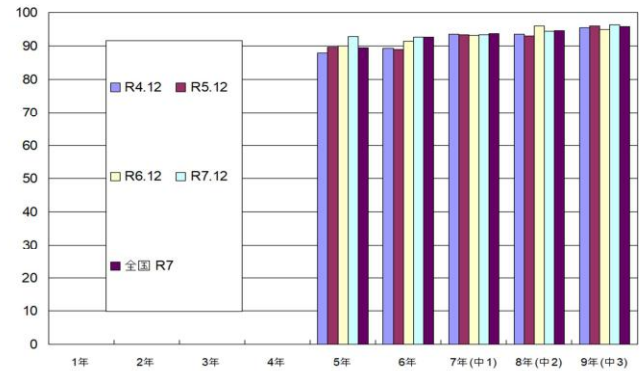
◆あなたのクラスには、いいところがあると思いますか。



クラスのいいところがあるって
素敵でござる！

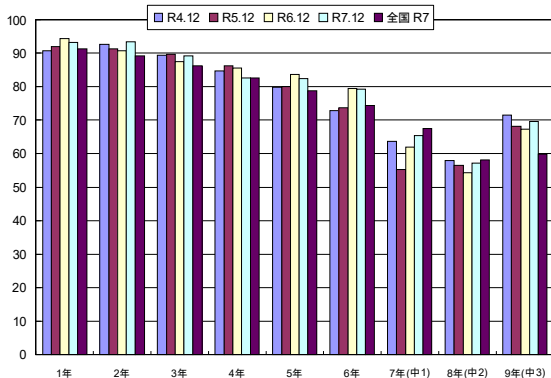


◆球技大会やクラスの発表会などがあるとき、あなたのクラスは盛り上がり、団結しますか。



【学習習慣】 家庭学習は・・・

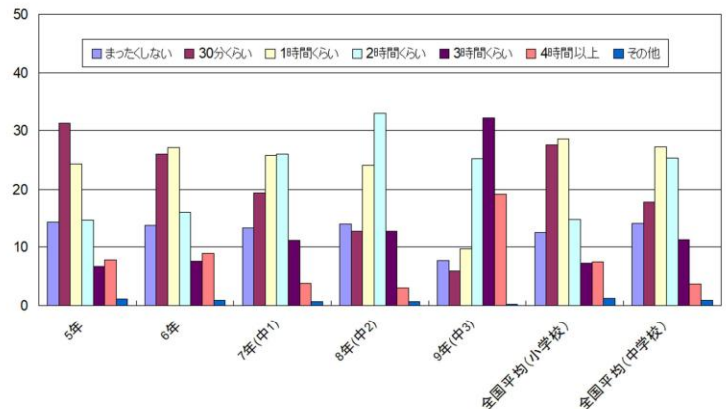
◆テストでまちがえた問題は、あとでやり直していますか。



日々の学習の積み重ねが
大切だね！



◆学校の授業以外に、平日（月～金）1日どれくらいの時間、勉強をしますか。



学級の絆について、「クラスにいいところがある」の肯定率は、全ての学年で90%を超える数値です。「学校行事の際、盛り上がり、団結しますか」の肯定率は学年が上がるに従って高くなる傾向にあり、全国と同程度の値です。学習の量や授業時間が増える中でも、各行事で団結して学校生活をおくっている様子が伺えます。

学習習慣について、「まちがえた問題は、あとでやり直しているか」は、9年（中3）を除き、学年が上がるにつれて肯定率は下がっており、全国と同じ傾向にあります。「学校の授業以外の平日の学習時間」については、5年は30分、6年は1時間、7年(中1)、8年(中2)は2時間、9年(中3)は3時間ぐらいが最も数値が高くなっています。学年が上がるに従って、家庭や塾等での学習時間が増えています。7～9年生（中1～3）は、全国と比較しても学習時間が長い傾向にあり、学習意欲の高さがうかがえます。予習や復習に取り組むなどの積み重ねは、授業内容の理解や定着に繋がります。授業以外の時間の使い方を工夫し、学習の習慣づけを行うことが大切です。



各校では、成果と課題を明確にし、取組の検証を行い、指導に活かしていきます。

【箕面っ子の自己肯定感】

- 本当につらいことがあったとき「家族や先生に相談できる」と感じている子どもたちの割合は、学年によって多少の違いはありますが、おおむね全国と比べて高い肯定率となりました。また、「自分にはクラスのみなを動かす力がある」「周りから期待されたり、頼りにされたりしている」と感じる割合も、全ての学年で全国よりも高くなっています。

自分は頼りにされている
期待されている



自分に自信がもてる
学校には自分の居場所がある



自己肯定感が高まる

子どもたちの考えに寄り添いながら、子どもたちの望ましい行動について価値付けし、自己肯定感が高まるような取組を大切にしていきます。

【いじめのサイン】

- 「いじめはよくないことだ」ということは、子どもたちは分かっています。各校の実態に応じて、いじめを止める、つらい思いをしている人の味方になるにはどうしたらいいかなど、いじめの未然防止に力を入れていきます。また、子どもたちに自分のつらい気持ちを発信することの大切さを伝えるとともに、子どもたちが教職員にSOSを発信しようと思えるよう、「共感・傾聴」を大切にします。各校において、いじめの未然防止策や対応中の事案の進捗状況を協議する「校内いじめ対策委員会」を定期的実施しております。対策委員会のメンバーは教職員だけでなく、SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)といった専門家も入り、多面的に見ることを大切にしています。
- インターネットやSNS上でのいじめは、なかなか表面に出にくい場合が多いです。インターネットやSNSを使用し始める時期の低年齢化が進んでいます。いじめが重篤化しないよう、日々、子どもたちの表情や言動を気にかけて、各学級における人間関係づくりの取組や情報モラル教育の充実とともに、周りの大人が子どもたちのサインを見逃さず、しっかりと見守っていく必要があります。

【学級の絆】

- 「自分のクラスには、いいところがある」と言えるには、学級が子どもたち一人ひとりにとって安心できる居心地の良いものであることが大切です。子どもたちが、学級での成功体験を積み、達成感を得ることで、「自分たちはできる」と感じられるよう、今後も取組を進めていきます。

【社会性・規範意識】

- 社会性の育成のため、引き続き、思いや考えを伝え合う授業を各校で実施します。
- 集団生活におけるきまりやルールを主体的に判断し、社会人としての規範意識を身につけられるよう、役割や仕事に対する責任について考える場面を多く作り、役割を果たす過程や、果たした時の価値づけなど、子どもたちが達成感を得られるような取組を進めていきます。

【学習習慣】

- テスト後のやり直しをしている割合は、9年(中3)を除き、学年が上がるにつれて値が下がる傾向にあります。1・2年のうちから、やり直しの仕方・大切さについて指導していきます。
- 学習をする際に、課題に対して、どれくらいの時間で取り組むか計画立てる習慣を1～6年のうちから身につけるよう指導していきます。